

令和2年度版

京都市の学校評価システム

令和元年度（平成31年度）実施状況

——「自らを振り返り」「互いに高め合う」——

令和2年9月

京都市教育委員会

目 次

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方	2
2 重点項目	5
3 実施状況	5
4 学校評価関係年表	14

II 学校での取組事例

1 京都市立岩倉北小学校	19
2 京都市立東山総合支援学校	35

I 京都市の学校評価システム

1 京都市における学校評価の考え方

本市では、「学校運営の組織的・継続的な改善」、「保護者・地域等の参画による開かれた学校づくり」、「教育活動の質的向上」等を目的に、学校・家庭・地域が相互に高め合う「京都市方式」での学校評価を実施している。

制度の導入にあたっては、2年間に亘る校長会との共同プロジェクトによる議論と試行実施を経て、「京都市学校評価ガイドライン」を策定、学校と家庭・地域が、お互いが足りないところを補い合い、高め合う双方向の信頼関係を築くことを目指す本市ならではの学校評価として平成15年度から全校で導入した。

その後、国においても、平成19年に学校評価に関する法令の改正が行われ、「学校による自己評価の実施とその公表、教育委員会への報告」が義務化されるとともに、「自己評価結果に対して保護者、地域の方々など学校関係者による評価を得ること」も努力義務化された。加えて、本市では学校評価の実施状況について客観的に検証し、学校の教育の質の向上につなげるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置している。

なお、現在、**次の4点を柱とし**、学校運営協議会等と密接に連動しつつ学校評価の充実に努めている。

(1) 学校評価をみんなのものにする

各学校では、学校教育目標や個別の具体的実践に関わる評価内容を全教職員が共有し、今後の教育活動の改善に向けた行動につなげている。併せて、保護者・地域の方々による「学校関係者評価」やそれらの公表を行っている。こうした教職員・保護者・地域が「みんなごと」として取り組む学校評価は、子どもたちの学校生活を「よりよいもの」とする上で、重要な役割を担っている。

(2) 当事者意識を持って評価する

評価においては、評価者自身がよりよい学校づくりを進める当事者であるという意識を持つことが肝要である。このため、保護者・地域等の学校関係者による評価においても「学校の自己評価結果に対する評価」に加え、「学校の課題を把握し、課題解決に向けた支援策」についても「自分ごと」として捉え学校運営協議会等で協議していただくことにしている。

(3) 自らを振り返り、互いに高め合う

本市では、制度の導入当初から、評価者の一方的な評価ではなく、それぞれの立場で自らを振り返ることを重視してきた。「教職員は自らの教育活動や指導を振り返る」「保護者は自らの子育てを振り返る」「地域は子どもへの関わりを振り返る」そして、「子どもたちは、自らの学習や活動に向かう学びの姿勢を振り返る」など、お互いに補い合い、高め合う双方向の信頼関係の構築を目指している。

(4) 学校の魅力を発見し、発信する

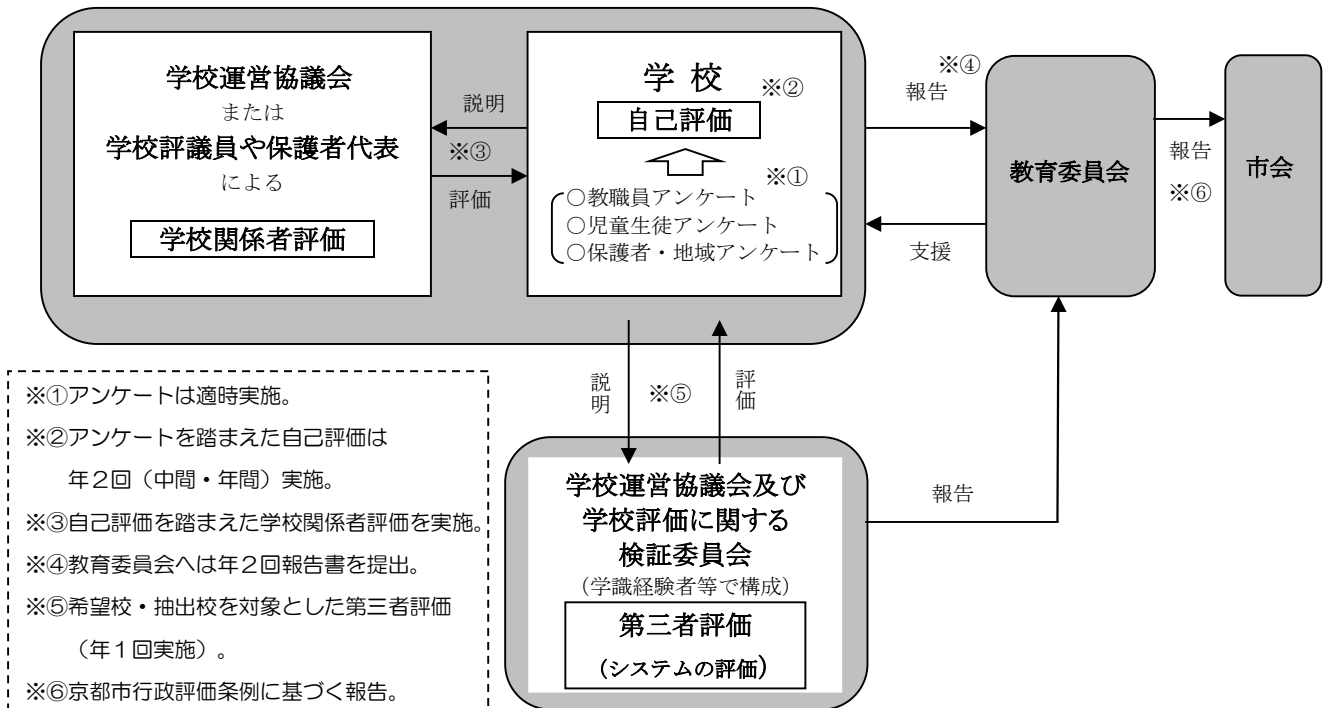
学校が捉える諸課題の克服・改善、魅力の発見・向上のためには、効率的・効果的な評価プロセスの構築が必要である。本市では、分かりやすい情報発信を視野に、効率的なアンケート作成・集計・分析が可能な「学校評価支援システム」（本市独自作成）を導入している。学校評価の結果の概要は、全学校がホームページで公開するとともに学校だより等でも保護者や地域に積極的に情報発信している。

参考1－1 制度導入の経緯（詳細はp14「学校評価関係年表」参照）

平成13年	学校評価の試行実施（校長会との共同プロジェクト発足）
平成15年 4月	全校で学校評価を実施、「京都市学校評価ガイドライン」の策定
平成16年 3月	全校での評価結果の公表
平成18年12月	学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会の設置
平成19年 4月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定(第2版)
平成19年 6月	「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」の施行
平成19年 7月	「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」を設置 (学校運営協議会に関する専門委員会 学校評価部会を組織改正)
平成19年12月	学校評価に関する法令(学校教育法, 学校教育法施行規則)の改正
平成21年 6月	「京都市学校評価ガイドライン」の策定(第3版)

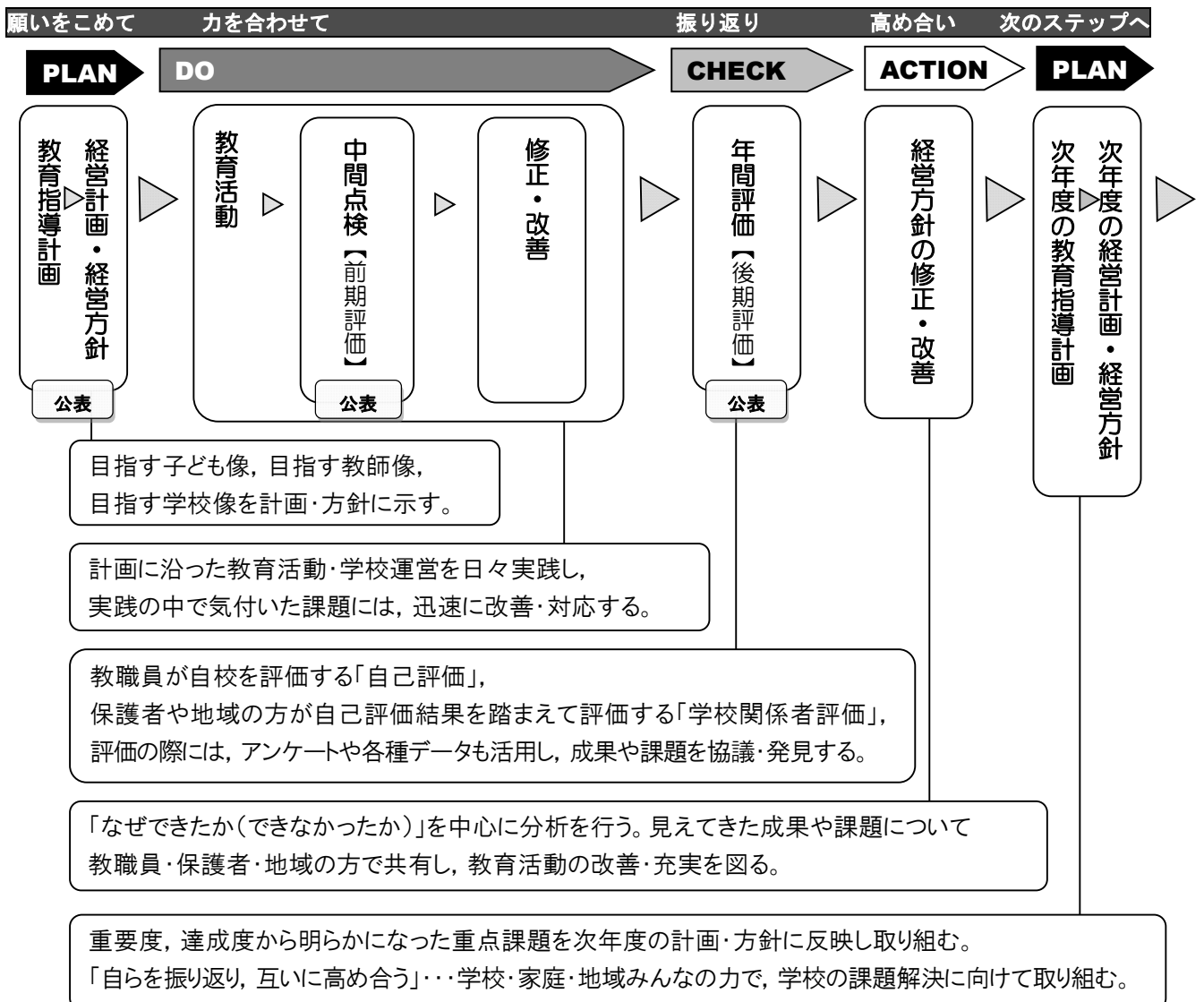
参考 1 - 2

《自己評価と学校関係者評価、第三者評価のイメージ図》



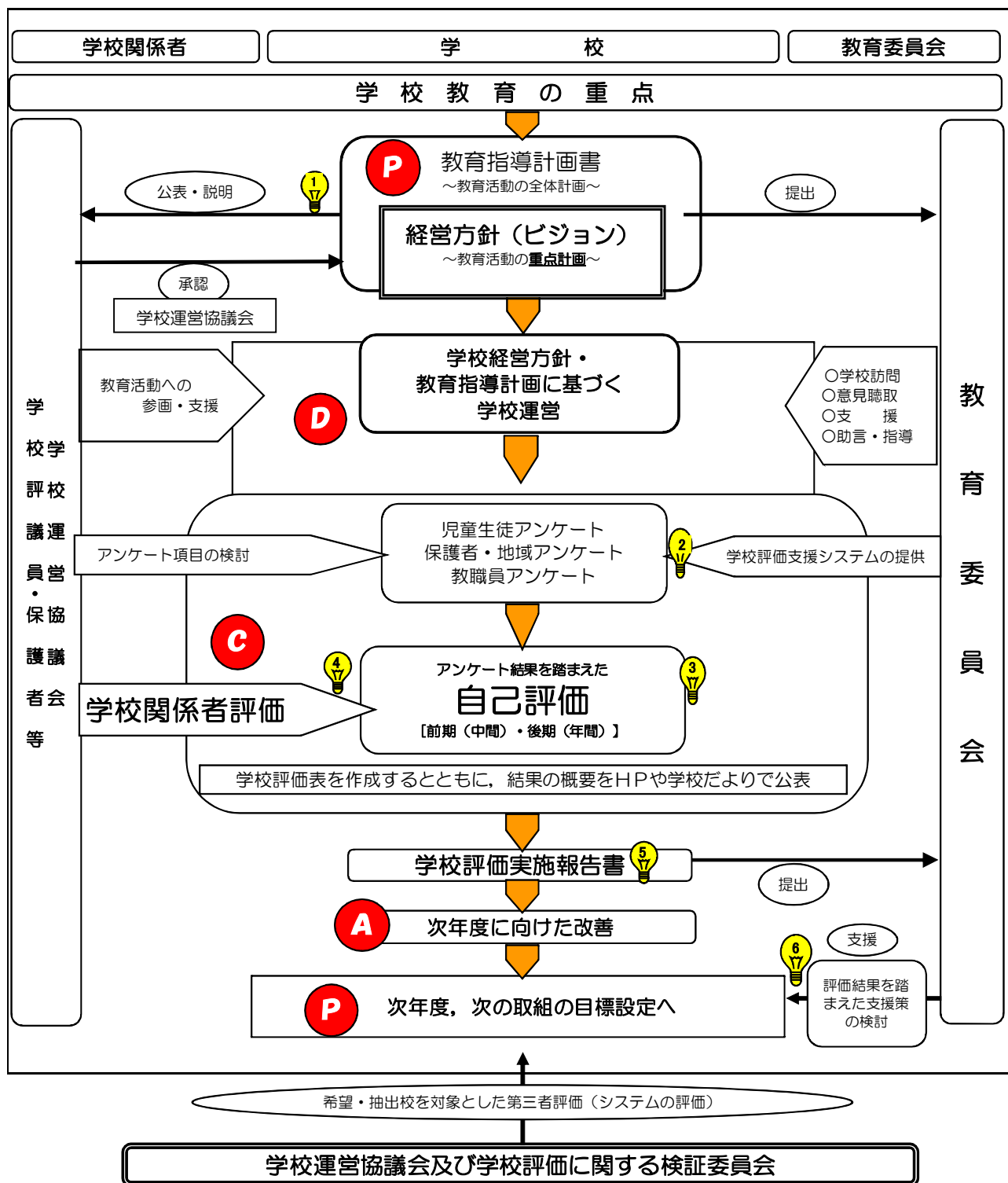
参考 1 - 3

《PDCAサイクルに基づく学校評価の流れ》



学校評価の推進と学校運営の改善

学校は、自己評価を基本とし、学校関係者評価を活用して、組織的・継続的に改善を図っています。



ポイント

- 1 学校経営方針，学校評価年間計画，評価項目の策定，公表
- 2 学校の魅力・課題の発見に繋がるアンケート手法の活用（推奨）
- 3 学校組織としての自己評価を充実させ，評価結果及び改善策を提示
- 4 自己評価結果に対する学校関係者評価の実施と，課題解決に向けた改善策や支援策の協議
- 5 評価結果の教育委員会への報告（年間2回）
- 6 教育委員会は学校に対する様々な支援の情報として評価結果を活用

2 重点項目

令和元年度（平成31年度）は、これまでの実践を継承しつつ、学校教育の一層の充実に資する学校評価とするために、以下の4点を重点項目として推進した。

- （1）「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」による学校訪問（第三者評価）を実施（小学校2校，中学校1校，総合支援学校1校，計4校を訪問）。生き方探究（キャリア）教育や保幼小の連携・接続など，多様な教育活動の更なる充実に向けた手段としての学校評価の在り方について検証を行った。
- （2）児童生徒や保護者・地域，教職員を対象としたアンケートについて，各校がより効果的かつ効果的に評価・分析を行えるよう，教育委員会として，アンケートを作成・集計・分析するための「京都市版学校評価支援システム」の運用を支援。令和元年度（平成31年度）の評価に向けてアンケートの集計等に必要なスキャナを更新するなど，安定的な運用に努めた。
- （3）教職員の多忙な勤務実態を喫緊の課題と捉え，地域・保護者との意識の共有を図りながら「学校・園の働き方改革」を踏まえた学校評価を実現するため，令和元年度（平成31年度）から，業務改善・教職員の働き方改革についての共通の評価項目を追加。
- （4）学校園の管理職等を対象にしたコミュニティ・スクールに関する説明会において，学校運営協議会に加えて，新たに学校評価に関する説明を行い，学校評価の意義や公表方法の工夫等について周知を図った。

3 実施状況

（1）「自己評価」の実施状況（義務）

保護者，児童生徒へのアンケート等をもとにした「自己評価（学校教育法施行規則第66条）」を行った。結果については，各校のホームページや学校だより等で公表した。

（2）「学校関係者評価」の実施状況（努力義務）

「学校関係者評価（同第67条）」については，全ての学校で，「学校運営協議会」又は「学校評議員が一堂に会する場」において，「自己評価の結果」と「学校としての改善策」を学校から説明したうえで，学校運営協議会委員や学校評議員から，それらに対する意見だけではなく，子どもたちや学校の課題に対する支援策についても言及していただくこととしており，課題に即した支援の充実が進められている。

また，新しい学習指導要領（平成29年告示）では，教育課程の編成実施にあたって，地域社会との連携・協働が求められている。本市では全国に先駆けて，学校運営協議会と学校教育目標や子どもたちの姿を共有するだけでなく，多様な視点での評価を通じて，学校・保護者・地域の取組を振り返り協働して，子どもたち一人一人を徹底的に大切にする教育の更なる充実に努めている。

（3）学校評価の実施にあたって

全ての学校に対し，「評価結果の公表方法及び内容の工夫」や「学校評価の効果」，「実施にあたっての課題」についてのアンケートを実施した（令和2年7月学校評価アンケート調査）。小・中学校の回答状況（複数回答可）は次のとおり。

ア 公表方法や内容の工夫について

評価結果は，保護者・地域に向けて全校のホームページで発信している。加えて，学校だより等への掲載や学校運営協議会等の場で直接説明する機会を設けるなど，参考2－1のとおり複数の方法を活用し，それぞれの学校の実態を踏まえ積極的な発信を行っている。

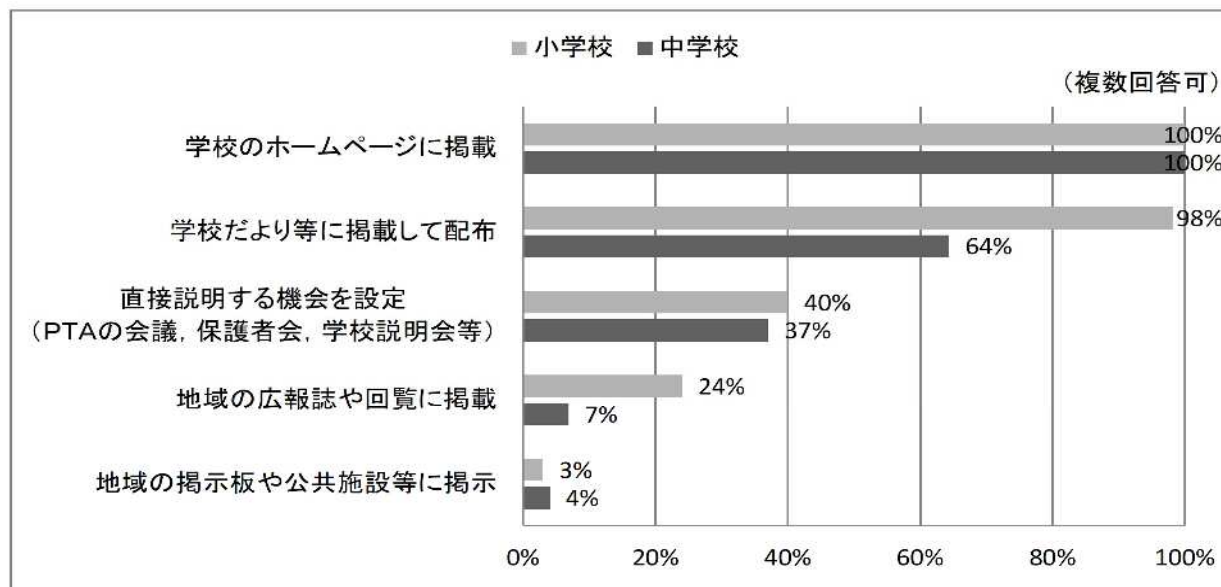
公表内容についても，参考2－2のとおりアンケートの数値だけでなく，評価者の属性間（児童生徒・保護者・地域）での比較や諸課題との結びつけなど分析の工夫をしながら，イラストやグラフ化など視覚に訴える分かりやすい発信に努めている。

一方で，中学校では，複数の方法を活用した公表や公表内容の工夫の割合が小学校よりも低い傾向にある。今後，よりよい公表方法や内容の在り方について第三者評価等で議論を深め充実に図る。

なお，分析結果については，単独の学校にとどまらず，各中学校ブロック内の小・中学校間で共有するなど，義務教育9年間で連続した学びの場として捉え各校の取組に活用されている。

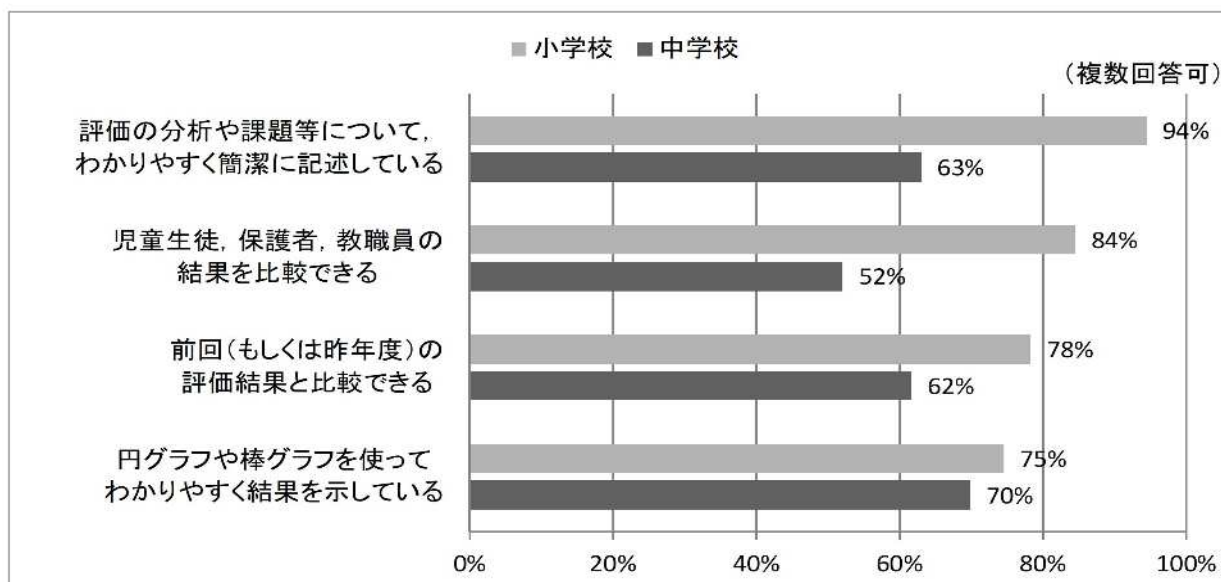
参考 2－1 (令和 2 年 7 月学校評価アンケート調査)

評価結果の公表方法についての工夫



参考 2－2 (令和 2 年 7 月学校評価アンケート調査)

評価結果の公表内容についての工夫

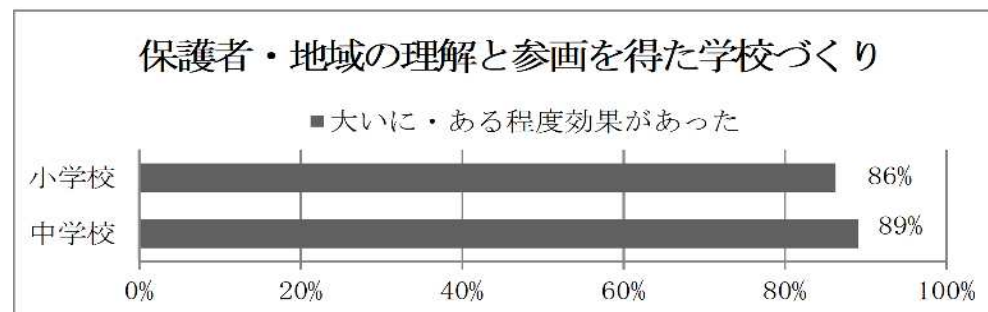
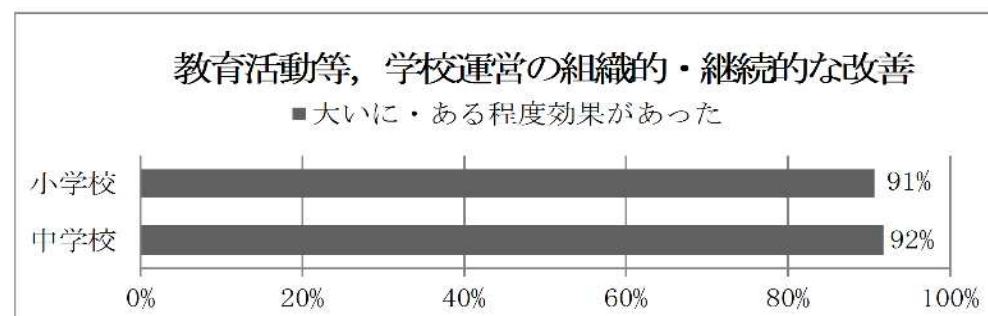
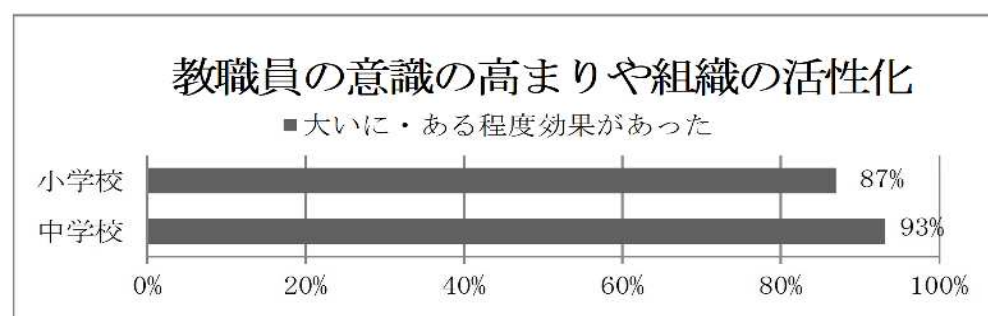
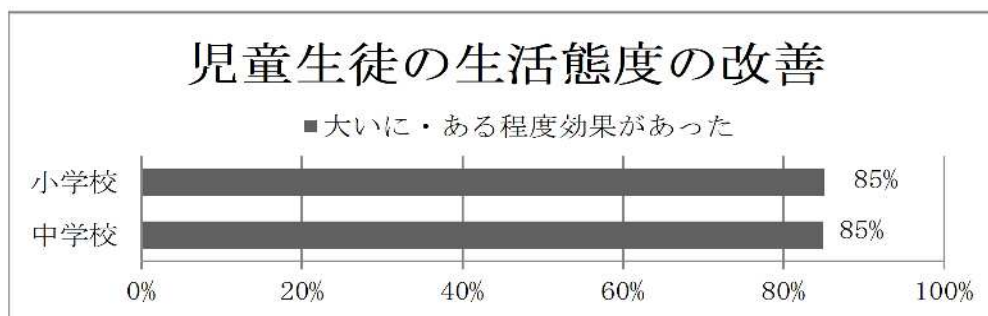
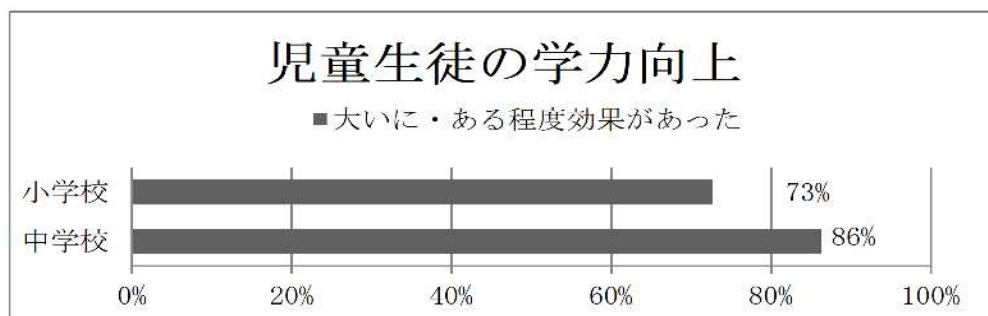


イ 効果について

学校評価については、児童生徒の学力向上や生活態度の改善、教職員の意識の向上・深化や組織の活性化、学校運営の組織的・継続的な改善、保護者・地域の理解と参画を得た学校づくりの各観点において、[参考 2－3](#)のとおり多くの学校で効果があるとの評価を得ている。学校評価を通じて、学校・保護者・地域が連携・協働する体制が構築され、子どもたちの学びと育ちを支える仕組みが定着してきていると言える。

学校評価を通じて明らかとなった諸課題を、教職員間で共有し改善に向けた協議を重ねるだけでなく、学校運営協議会や学校評議員との情報共有を通して、更なる協力・支援を得るなど、PDCAサイクルの中で保護者や地域、教職員が一体となって、課題解決に向けた取組が進められている。

学校評価の効果について



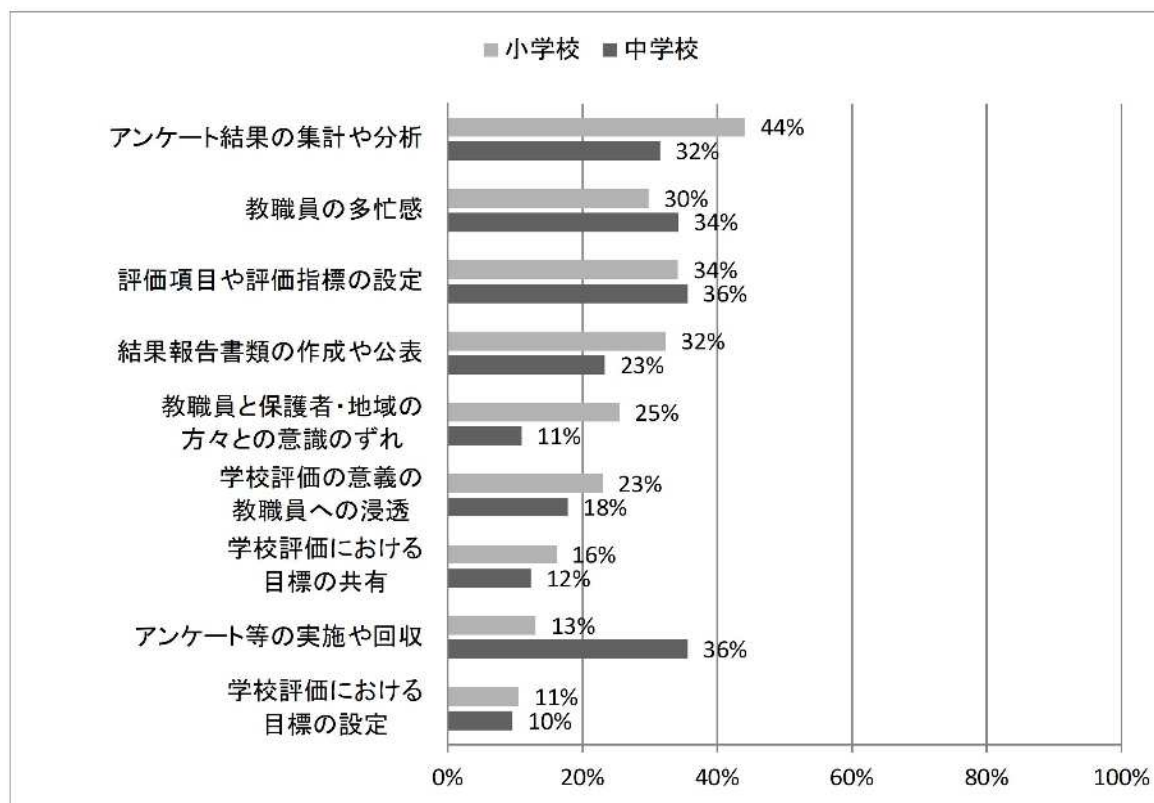
ウ 課題について

学校評価の課題については、アンケートの実施、集計や分析に係る報告書類作成の作業を煩雑と感じる学校が見受けられることから、平成 26 年度に導入した「学校評価支援システム」の利用を推進しており、利用時のエラー発生率を低減させ更なる利便性の向上を図るため、平成 30 年度以降システム改修を行うとともに、アンケートの集計や分析に必要なスキャナを更新するなど、学校・教職員の負担軽減に努めている。今後、地域社会のより多くの方々に、学校の取組へ

の理解や参画をしていただけるよう、PTAの会議や地域の回覧等の活用などの公表方法や、見やすく伝わりやすい図表の活用など公表内容の更なる工夫を行う必要がある。なお、保護者アンケートの回収率は約8割と高く、引き続き学校評価の意義や目的について保護者・地域との共通理解に努めるとともに、よりよい信頼関係のもとで取組を推進する。

参考 2-4 (令和2年7月学校評価アンケート調査)

学校評価に関する課題あるいは困難だったと感じられる点



(4)「第三者評価」等の実施状況

ア 「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」について

学校評価の各学校での実施状況を含め、本市が進める学校評価システムの客観性・信頼性を検証するとともに、第三者的な視点で学校運営や教育活動の質の向上に繋げるため、学識経験者等による「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」（以下「検証委員会」という）を設置している。

なお、検証委員会は、「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」第11条第2項に規定する調査・審議のための委員会としての機能も果たす、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づく附属機関である。

【検証委員会委員（令和元年度（平成31年度））敬称略・役職等は委員任命当時のもの】

◎小松 郁夫	京都大学 特任教授
○天笠 茂	千葉大学 特任教授
入江 嘉明	公募委員（樫原小学校学校運営協議会委員）
酒井 照美	PTA代表（京都市小学校PTA連絡協議会庶務）
宿野 秀晴	公募委員（塔南高等学校学校運営協議会委員）
竺沙 知章	京都教育大学連合教職実践研究科 教授
西川 信廣	京都産業大学 教授
平林 幸子	京都中央信用金庫 副会長

※ ◎は委員長，○は副委員長

（参考）平成30年度から、学校・教育委員会事務局代表はオブザーバーとして参加

イ 令和元年度（平成31年度） 検証委員会開催状況

①第1回会議

- ・日 時 令和元年10月24日（木）10：00～12：00
- ・会 場 京都市総合教育センター 第2研修室
- ・委 員 小松委員長，天笠副委員長，入江委員，酒井委員，宿野委員，竺沙委員，西川委員
- ・議 題 学校評価及び学校運営協議会について
検証委員会の学校訪問について

・議事概要

（学校評価及び学校運営協議会について）

- 学校評価や学校運営協議会の制度については、全国の状況と照らし、京都市では時間をかけて内容の充実を図ったものとなっている。一方で、学校現場や時宜に合ったものとなっているか在り方を検証するとともに、学校評価の内容だけでなく、評価を改善に向けてどのように機能させていくか議論を深める必要がある。
- 学校評価の意義が学校現場に十分に浸透しているとは言えない。管理職だけでなく、他の教職員にも学校評価の意義や活用について伝えていかなければならない。
- 学校評価が単なる学校に対する批判や要望の道具にならないよう十分に配慮するとともに、教職員が生き生きと創造的に子どもたちと向き合うことができるよう、教職員の働き方改革についても学校評価における重視する視点の一つとし、保護者や地域が学校を支援する仕組みを作る必要がある。
- 新しい学習指導要領ではより社会に開かれた学校づくりが求められている中、保護者や地域と連携・協働した取組を推進するためには、保護者や地域からの評価を踏まえた学校評価の適切な公表が肝要である。学校評価の内容が明確に伝わるように表現を工夫するなど、公表の目的や方法について、十分に検討して実施すべきである。
- 学校評価を基軸に教育活動の充実を図るためには、評価する側とされる側の信頼関係の構築が不可欠である。学校評価の項目に教育活動の全ての要素を反映することは困難であるが、対外的な説明責任に資するとともに、新しい時代に見合ったものにするための一層の工夫が必要である。
- 京都市では、地域とともに子どもをはぐくんできた歴史と伝統を基盤に、学校教育や生涯学習を調和させながら学校運営協議会を展開できている。また、学校評価においては、第三者で構成される検証委員会が設置されていることも、京都市の特徴である。これらの京都市の特徴を活かし、学校運営協議会と学校評価とが有機的に連動し学校教育活動の改善につながっている好事例の発信が求められる。また、改善や改善に至らなかった事例の分析も検証委員会の役割そのものである。

②検証委員会による学校訪問

本市の学校評価システムが、学校現場において、学校運営上の課題解決に向けた手段としての確に機能しているかどうかを検証するため、学校訪問を実施した。令和元年度（平成31年度）は、生き方探究（キャリア）教育や保幼小の連携・接続など、多様な教育活動の更なる充実に向けた手段としての学校評価の在り方について検証を行った。計4校において、校長等へのヒアリング、授業参観等を実施し、教育活動全般における子どもたちの姿を通じた取組への評価をいただいた。

＜小学校＞

（ア）岩倉北小学校

- ・日 時 令和元年11月18日（月）9：00～13：00
- ・委 員 小松委員長，天笠副委員長，入江委員，宿野委員，西川委員
- ・内 容 岩倉北小学校の取組（教育ビジョンに即した学校評価等）

（イ）明德小学校

- ・日 時 令和元年11月18日（月）13：30～16：30
- ・委 員 小松委員長，天笠副委員長，入江委員，酒井委員
- ・内 容 明德小学校の取組（保幼小連携・接続，地域の特色を生かした教育活動等）

＜中学校＞

（ア）九条中学校

- ・日 時 令和元年11月25日（月）9：30～12：00
- ・委 員 小松委員長，天笠副委員長，入江委員，酒井委員，宿野委員，竺沙委員
- ・内 容 九条中学校の取組（小・中合同の学校運営協議会等）

＜総合支援学校＞

（ア）東山総合支援学校

- ・日 時 令和元年11月25日（月）13：30～16：30
- ・委 員 小松委員長，天笠副委員長，入江委員，竺沙委員，平林委員，酒井委員
- ・内 容 東山総合支援学校の取組（地域の参画による生き方探究（キャリア）教育等）

委員からは、「校長の明確な学校教育目標・学校経営方針の下，地域の特性を活かした教育課程をはじめ，キャリア教育など特色ある教育活動が実施されている。」「評価項目は学校教育目標に即し，精選されたものであり，学校関係者評価に基づく自己評価を実施するなど適切な評価を行い，公表方法や公表内容も適正で，分析を踏まえた具体的な改善策が示されている。」との評価をいただいた。

また，今後の課題としては，「学校運営協議会の委員の選任や運営の工夫，新たな地域人材の参画に向けた働きかけが必要である。」「学校が取り組む課題が多様化し，若手教員が増える中，評価結果を学校組織全体で受け止め，若手の教員への助言や日常の授業改善に活用していく工夫が期待される。」等の御意見をいただいた。

③第2回会議

- ・日 時 令和元年12月18日（水）10：00～12：00
- ・会 場 京都市総合教育センター 第2研修室
- ・委 員 小松委員長，天笠副委員長，入江委員，酒井委員，宿野委員，西川委員，平林委員
- ・議 題 京都市の学校教育の充実に向けて（学校訪問等も踏まえて）
- ・議事概要

（京都市の学校教育の充実に向けて（学校訪問等も踏まえて））

【学校教育の現状と今後の方向性について】

＜岩倉北小学校＞

○子どもが健やかに成長するための素晴らしい環境を有し，そうした環境を生かした教育ビジョンを教職員等にわかりやすく伝えることができている。

○学校運営協議会については、地域の力強い支援と協力がある一方で、新味のない取組継続につながる構成員の固定化は課題の一つ。

<明徳小学校>

○子どもたちと教職員の距離が近く、良い関係性の中で子どもを育てている。また、学校評価も丁寧に対応され、校内に温かい雰囲気がある。教職員の世代交代など課題山積であるが、地域の状況など独自の特色を生かした教育の可能性を感じた。

○教職員の大幅な世代交代を迎え、ベテランの経験やノウハウの継承、若手教員の育成が喫緊の課題であり、そうした課題を学年単位で組織的に対応することで解決するという校長の方針や意図が、教職員一人一人に十分浸透しておらず、カリキュラム・マネジメントが不十分であると思われる。

<九条中学校>

○小学校・中学校合同の学校運営協議会など、地域と共に歩まれるモデルケースになると思われる。

○教職員と子どもが一体となった授業実践ができている一方、より一層教職員の指導力向上を図り、子どもたちが意見の違いをじっくり話し合い深めていけるような授業の在り方を模索すべき。

<東山総合支援学校>

○地域の理解や協働のもとで設立した経緯があり、地域貢献を目指した教育活動が実践できしており、学校のビジョンに沿っている。今後、目指す子ども像に、「社会性を育むこと」が加わると、より一層の教育実践の充実につながるのではないかと考える。

○学校評価における子どもの自己肯定感については、教職員よりも子どもがやや低い傾向にある。教職員が発見した子どもの良さをしっかりと伝えていくことが大切である。子どもたちが社会的自立を果たせるよう、さらに企業との接点を探り、多様な進路を開拓してほしい。

【京都市の学校教育の充実等について】

○学校運営協議会については、新たな時代を切り拓くための新しい教育を適切に認識されているか、持続可能な組織づくりができているのかが問われる。また、活動の見える化を含め、保護者や教職員が一層主体的に参画できる仕組みづくりが必要である。

○検証委員会は、行政活動を学識者等の第三者の視点から捉え、評価していく組織であり、そうした組織があることは京都市教育の強みである。検証委員会と学校の常なる往還の仕組みを活性化させ、教育活動の充実に資するものとすべき。

○世代交代に伴う教職員の資質向上や授業改善、学校運営協議会の組織の在り方など様々な課題がある一方、京都市教育の成果や強みについても具体的に確認できた。そうした成果や強みにスポットライトを当てることも検証委員会の役割である。学校評価は、学校の実態や学校づくりの方向性を発信し、関係者と共有するためのツールである。学校評価で情報を共有し、学校運営協議会で行動につなげることで、教育活動の充実を図っていけると良い。

(5) 学校評価支援システムの運用

ア 概要

平成26年度に導入した「京都市版学校評価支援システム」は、本市の新たな情報環境や情報機器に対応し、かつ機能面においても、アンケートの作成・集計・分析・データ管理を一つのシステムメニューに統合し、分析結果のグラフをより見やすくする等の改善を加えた本市独自のシステムである。導入以降も、学校からの要望を踏まえ、「アンケート結果の学年・学級での絞り込み機能」や「他校と共通のアンケートをとれる機能」等を追加し、アンケートの作成や集計、結果分析をより効率的かつ多面的に実施できるよう改善している。平成30年度以降も、必要な機器の整備や、結果分析において、回収したアンケートのスキャン時のエラー発生率を減らすなど、利便性の向上を図り各校での活用を推進している。

イ 活用状況

学校評価支援システムを活用している学校は、小・中・小中学校で198校と約8割である一方、活用していない学校においても、学校独自の計算ソフトによる集計・分析などを行っており、学校の実情に応じたアンケートを実施できているといえる。今後も担当者の変更を見据えたノウハウの継承など、持続可能な組織づくりの下で取組を推進する。

また、学校評価支援システムを活用したうえで、「重要度」と「実現度」との両方を聞き、自校の特色や課題を分析できるニーズ調査型アンケートは67校で実施している。これからも、各校において、実情に応じた課題解決に取り組めるよう、継続した運用支援を行う。

参考 2-5

アンケートの実施状況	小学校		中学校		合計	
	実施校数	実施校数 /全小学校数	実施校数	実施校数 /全中学校数	実施校数	実施校数 /全小中学校数
「重要度」と「実現度」を聞く ニーズ調査型アンケートの実施	45	28.0%	22	30.1%	67	28.6%
「実現度」のみを聞く アンケートの実施	90	54.9%	41	56.2%	131	55.3%
合 計	135	82.8%	63	86.3%	198	83.9%

学校評価支援システムを活用してアンケートを実施している学校の状況

※小中学校（義務教育学校）の前期課程は小学校、後期課程は中学校に含む。

参考 2-6

「重要度」と「実現度」を聞く「ニーズ調査型」アンケートの例

◆ 挨拶について

以下の項目について、「どのくらい重要だと思うか（重要度）」と、「実現できていると思うか（実現度）」をそれぞれお答えください。

		重要度				実現度			
		重要である	やや重要である	あまり重要ではない	重要ではない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
1	自ら進んで挨拶をすること	○	○	○	○	○	○	○	○
2	相手の気持ちを思いやって接すること	○	○	○	○	○	○	○	○

参考 2-7-①

ニーズ調査型（特色・課題発見型）分析の例

学校評価支援システムでは、アンケートの中で各項目の重要度と実現度を同時に聞くことにより、学校の特色・課題を自動的に分析することができる。

質問項目	▲ 重要度 ▼	▲ 実現度 ▼	▲ ニーズ度 ▼
子どもが適切な言葉づかいをすること	7	1.1	48.3
子どもが丈夫な体をつくろうとすること	3	1	21
子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	4.9	5	14.7
子どもが他人を思いやり、親切にすること	7	5	21
子どもが楽しく学校に通っていること	7	5	21
子どもが将来の夢や希望について考えること	7	1.1	48.3
子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	2.9	2.9	14.8
子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	4.9	4.9	9
学校が、いじめのない学校づくりに取り組んでいること	7	7	7
学校が、人権を大切にしている教育活動を行うこと	7	7	7
学校の教育方針が保護者に伝わっていること	5.7	3.5	25.7
学校だより、学校ホームページで、学校の日常の様子を伝えること	6.9	3.4	31.7

は、重要度が高い項目

は重要度が高く、実現度が低い項目。この項目を重点課題に位置付けるなど、回答に表れた願いを学校の取組に反映させることができます。

は、実現度が低い項目

学校評価支援システムにおけるニーズ調査型の分析の見方

以下の計算方法で、システム内で自動計算し、表またはグラフ等で分析結果として表示。

※重要度及び実現度の計算方法

4段階評価の回答内容を、以下の数値に置き換えて、全回答者の平均値を算出。(最大値は7、最小値は1)

「とても重要である」/「とても出来ている」・・・7

「やや重要である」/「やや出来ている」・・・5

「あまり重要でない」/「あまり出来ていない」・・・3

「重要でない」/「出来ていない」・・・1

- ・重要度及び実現度がともに、7に近い数値であるほど、評価者が重要だと考えており（重要度）、評価者が実施出来ていると考えている（実現度）ことを示す。
- ・重要度が高く、実現度が低い場合は、評価者が重要だと考えているが（重要度）、評価者が実施出来ていないと考えている（実現度）ことを示す。

※学校の特色と課題を把握するためのニーズ度の計算方法

重要度と実現度の結果を乗じて算出。(最大値は49、最小値は1) 計算式「重要度×(8-実現度)」
数値が高い(重要度が高く、実現度が低い)ほど、自校の課題となり、数値が低い(重要度が高く、実現度が高い)ほど、自校の特色となる。

- ・重要度が7、実現度が1の場合 「 $7 \times (8 - 1) = 49$ 」となる。
重要度は高いが、実現度が低いので、最大値である49となり、自校の課題と分析出来る。
- ・重要度が7、実現度が7の場合 「 $7 \times (8 - 7) = 7$ 」となる。
重要度が高く、実現度も高いので、自校の特色(すでに達成できている)を活かしていると分析出来る。

		重要度も実現度も高い項目	
高 ↑ 実現度 ↓		自校の特色	学校が、いじめのない学校づくりに取り組んでいること 学校が、人権を大切にしたい教育活動を行うこと
	子どもが部活動・クラブ活動で積極的に活動すること	子どもが学校の決まりや約束を守って生活すること	子どもが他人を思いやり、親切にすること 子どもが楽しく学校に通っていること
低	子どもが家庭で習慣的な手伝いなどの役割を持つこと	学校の教育方針が保護者に伝わっていること	学校だより、学校ホームページで、学校の日常の様子が保護者に伝わること
	子どもが丈夫な体をつくろうとすること	自校の課題	子どもが適切な言葉づかいをすること 子どもが将来の夢や希望について考えること
		重要度が高く、実現度が低い項目	

重要度と実現度の関係を相対的に捉えることで、学校の特色、課題を視覚的にとらえることができ、焦点化した分析が可能になります。

また、教職員と保護者に同様の質問項目を設定することで両者の認識のずれを確認できます。

(6)「学校評価実施報告書」の充実

教職員の多忙な勤務実態を喫緊の課題と捉え、「学校・園の働き方改革」のもとで、地域・保護者との意識の共有を図りながら学校評価を推進するなど、本市の軸となる政策の浸透を図るため、各校で作成する学校評価実施報告書において、令和元年度(平成31年度)から、業務改善・教職員の働き方改革について共通の評価項目を追加した。(p25, 37参照)

(7) 学校評価に関する周知

学校と保護者・地域が共通の目標・ビジョンを持ち、「社会総掛かり」で子どもたちを育てるため、学校園の管理職や学校運営協議会の委員等を対象とした研修会(令和元年10月18日開催)において、コミュニティ・スクールとして先進的な取組を行っている学校園の実践発表や講師による学校運営協議会の動向、取組例の紹介などに加え、学校評価における学校関係者評価についても改めて説明を行った。また、学校園の管理職の大幅な世代交代を背景に、令和元年度(平成31年度)は学校園の管理職等を対象として学校運営協議会の制度や充実内容等について周知している説明会(令和2年1月21日開催)においても、新たに学校評価の意義や効果、公表方法の工夫等について周知し、取組の更なる充実を図った。

4 学校評価関係年表

年月	京都市	国
H10 年 9 月		○中教審答申『今後の地方教育行政のあり方について』 「…各学校においては、教育目標や教育計画等を年度当初に保護者や地域住民に説明するとともに、その達成状況等に関する自己評価を実施し、保護者や地域住民に説明するように努めること…」
H12	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正（学校評議員の設置を明記）	
H12 年 12 月		○教育改革国民会議報告『教育を変える 17 の提案』 「…地域で育つ、地域を育てる学校づくりを進める。単一の価値や評価基準による序列社会ではなく、多様な価値が可能な、自発性を互いに支えあう社会と学校を目指すべき…」 「…各々の学校の特徴を出すという観点から、外部評価を含む学校の評価制度を導入し、評価結果は親や地域と共有し、学校の改善につなげる…」 ○教育課程審議会答申『児童生徒の学習と教育課程の実施状況の評価のあり方について』 「…各学校が、児童生徒の学習状況や教育課程の実施状況等の自己点検・自己評価を行い、それに基づき、学校の教育課程や指導計画、指導方法等について絶えず見直しを行い改善を図ることは、学校の責務である…」 「…自己点検・自己評価の公表については、地域や学校の実情に応じて、各教育委員会等においてそのあり方を検討することが望ましい。また、公表に当たっては、序列化などの問題が生じないように、十分留意する必要がある…」
H13 年 4 月	○学校評議員を全校・園に設置	
H13 年 8 月	○京都市新世紀教育改革推進プロジェクト「学校評価部会」発足（～平成 15 年 2 月）	
H13 年 9 月	○京都市学校評価実践研究協力校 7 校を指定	
H14 年 3 月		○小・中学校設置基準 （自己評価の実施と結果の公表が努力義務化。保護者等に対する情報提供を積極的に行うよう規定）
H14 年 4 月	○京都市では学校評価を全校種 40 校で実施	
H14 年 11 月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」で国が御所南小を指定。同事業の一環として、京都市が独自に高倉小を指定	
H15 年 3 月	○地域教育専門主事室「今求められる学校づくりのために」（実践事例集・ガイドライン）発行	
H15 年 4 月	○学校評価を全校・園で実施	
H15 年 9 月	○「新しいタイプの学校運営のあり方に関する実践研究」の一環として、京都市が独自に京都御池中を指定。すでに指定を受けている御所南小・高倉小と共に実践研究を進める	
H16 年 3 月	○評価結果を全校・園で公表	
H16 年 6 月		○地方教育行政の組織及び運営に関する法律一部改正（学校運営協議会が設置できるようになる）
H16 年 11 月	○京都市立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則の制定 ○御所南小・高倉小・京都御池中に学校運営協議会を設置	
H17 年 5 月	○学校運営協議会 5 校設置	
H17 年 6 月		○閣議決定『経済財政運営と構造改革に関する基本方針 2005』（義務教育における外部評価の実施と結果の公表のためのガイドライン策定が掲げられる） ○中央教育審議会答申『新しい時代の義務教育を創造する』（大綱的な学校評価ガイドラインの策定が必要と提起）

年月	京都市	国
H17年10月		○中教審答申『義務教育の構造改革』 「…教育の結果の検証を国の責任で行う。具体的施策として全国学力調査と学校評価システムをあげた… 「教育の質的向上に寄与する学校評価」という新たな捉え方」
H18年3月	○学校運営協議会 17 校設置	○文部科学大臣決定『義務教育諸学校における学校評価ガイドライン』（京都市などの事例を基に国の学校評価ガイドライン発表）
H18	○児童生徒によるアンケート評価を全校実施	
H18年12月	○学校運営協議会に関する専門委員会内に学校評価専門部会（平成 19 年に学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会に改組）を設置	○「規制改革・民間開放推進に関する第 3 次答申」（学校教育制度の評価確立が求められる） ○教育基本法改正
H19年1月		○教育再生会議第 1 次報告『社会総がかりで教育再生を』（保護者等による実効ある外部評価の導入とその結果の公表について提言）
H19年3月	○京都市教育委員会「学校評価実践協力校の実践報告集」発行 ○学校運営協議会 60 校設置	○初等中等教育局長通知 「…学校評価制度等に係る運用上の工夫等について」（個人情報に配慮した上でホームページ等で評価結果を公表するよう促している） ○中教審答申『教育基本法の改正を受けて緊急に必要なとされる教育制度の改正について』 「…情報提供に関する学校の責務の明確化は、公の性質を有する学校が、自らの説明責任を果たすためにも重要…」 ○文部科学省通知 「…個人情報に配慮した上で、評価結果をホームページ等で公表することを推進する…」
H19	○評価結果のHP公表の徹底	
H19年4月	○「京都市立小学校、中学校及び幼稚園の管理運営に関する規則」「京都市立高等学校の管理運営に関する規則」「京都市立総合支援学校の管理運営に関する規則」改正（学校評価を規則にも明記） ○学校評価ガイドラインの改訂	
H19年6月	○「京都市行政活動及び外郭団体の経営の評価に関する条例」制定（学校教育活動についても条例の対象とした。全国初）	○学校教育法一部改正
H19年12月	○京都市「学校運営協議会及び学校評価に関する検証委員会」第 1 回開催	○学校教育法施行規則一部改正 （学校評価を生かした学校改善及び教育水準の向上、保護者・地域住民等への教育活動や学校運営に関する情報の積極的な公開の規定を盛り込む）
H20年1月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 （19 年 6 月の法改正を受けての改訂）
H21年3月	○学校運営協議会 142 校設置	
H21年6月	○京都市学校評価ガイドライン【第 3 版】策定	
H22年3月	○学校運営協議会 163 校設置	
H22年7月		○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 （第三者評価の在り方に関する記述の充実）
H23年3月	○学校運営協議会 171 校設置	
H23年11月		○文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン』改訂 （第三者評価の在り方に関する記述の充実）
H24年3月	○学校運営協議会 184 校設置 （総合支援学校全校設置）	
H25年3月	○学校運営協議会 192 校設置	
H26年3月	○学校運営協議会 210 校設置	
H26年4月	○文部科学省委託事業「自律的・組織的な学校運営体制の構築に向けた調査研究」受託（～27 年度）	
H27年3月	○学校運営協議会 229 校設置 （小学校全校設置）	○文部科学省「コミュニティ・スクールの推進等に関する調査研究協力者会議」報告書公表 （コミュニティ・スクールの拡大・充実のための推進方策や今後の学校運営協議会制度等の在り方等について提言）

年月	京都市	国
H27 年 12 月		○中央教育審議会答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」 (全ての公立学校がコミュニティ・スクールを目指すべきであり、教育委員会は積極的にコミュニティ・スクールの推進に努めていくよう制度的位置付けを検討すべきである)
H28 年 3 月	○学校運営協議会 233 校設置	○文部科学省『学校評価ガイドライン』改訂 (平成 28 年 4 月の義務教育学校並びに小中一貫型小学校及び小中一貫型中学校制度化を踏まえ、小中一貫教育を実施する学校における学校評価の留意点を反映)
H28 年 4 月	○文部科学省委託事業「チーム学校の実現に向けた業務改善等の推進事業(小中一貫教育等に対応した学校評価の取組研究)」受託	
H29 年 3 月	○学校運営協議会 239 校設置	○文部科学省「いじめの防止等のための基本的な方針」改定(学校評価において、いじめの有無や多寡のみではなく、いじめが発生した際の迅速かつ適正な情報共有や組織的な対応が評価される旨の教職員周知の徹底を明文化)
H29 年 4 月		○地方教育行政の組織及び運営に関する法律一部改正 (教育委員会に対する学校運営協議会の設置の努力義務化、学校運営への支援について協議事項に位置付け)
H30 年 3 月	○学校運営協議会 241 校設置	
H31 年 3 月	○京都府内の高校で初めて塔南高等学校に学校運営協議会を設置 ○学校運営協議会 245 校設置 (幼稚園全園設置)	
R 2 年 3 月	○学校運営協議会 247 校設置 (小・中合同 45 中学校区で設置)	

Ⅱ 学校での取組事例

<概 要>

令和元年度に、検証委員会で訪問した2小学校、1中学校、1総合支援学校から、2校（岩倉北小学校、東山総合支援学校）の取組事例を掲載する。

（１）岩倉北小学校・・・19 ページ

- ・昭和49年4月に京都市立明德小学校北分校として開校。昭和50年3月に独立。
- ・児童数 316人（令和元年5月1日現在）
- ・特色 生き方探究（キャリア）教育を柱とした教育課程や地域の特性を活かした教育実践などを通じて能動的で対話的、協働的に学び、自らの生き方を問い続ける子どもを育てている。

（２）東山総合支援学校・・・35 ページ

- ・平成25年4月に京都市立白河総合支援学校東山分校として開校。平成28年4月に開校。
- ・生徒数 107人（令和元年5月1日現在）
- ・特色 東山区修道学区をはじめとする地域との協働・貢献事業の充実を図り、専門教科「地域コミュニケーション」を核としたキャリア教育のもと、将来の社会参加と自立を自ら実現していこうとする高い意欲と態度を育成している。

京都市立岩倉北小学校のグランドデザイン

1 「学校教育目標」のめざすもの



岩倉北小学校の学校教育目標は、「質的な豊かさを伴った持続可能な社会を創る担い手を育て」「主体的・対話的で深い学びの実現」「能動的な学習者の育成」の具現化に向けて、社会に開かれた教育課程、新学習指導要領に対応した横断的で効果的なカリキュラム・マネジメントをすすめ、QPMIサイクルが活性化する、具体的な取組を求めているものです。

※「質的な豊かさを伴った社会」

Society 5.0 で実現する社会、資源自給、健康自立、自然共生、生涯現役、多様な選択肢、自由な参加を備えた社会、社会の変革（イノベーション）を通じて、これまでの閉塞感を打破し、希望の持てる社会、世代を超えて互いに尊重し合える社会、一人一人が快適で活躍できる社会をつくることを目指します。



出典：（内閣府）Society 5.0「科学技術イノベーションが拓く新たな社会」説明資料

※「持続可能な社会」

地球環境や自然環境が適切に保全され、将来の世代が必要とするものを損なうことなく、現在の世代の要求を満たすような開発が行われている社会。誰一人取り残さない社会をつくることを目指します。

※「主体的な学び」

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「学び」をつくることを目指します。

※「対話的な学び」

児童相互の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める「学び」をつくることを目指します。

※「深い学び」

習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，自ら問いを見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう「学び」をつくることを目指します。

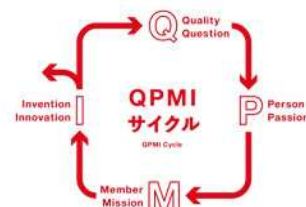
※「能動的な学習者」

岩倉北小学校では，主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）をゴールとせず，能動的な学習者を育てることを目指します。

アクティブ・ラーニングは活動・手段を指すものであり，育てるべきはアクティブ・ラーナー（能動的な学習者）です。児童の学びは「内発的な動機」から始まるものです。自らの問いや学びを「振り返る」ことにより，メタ認知能力を発揮・育成できる場を設定し，生涯学び続け主体的に考える力をもった児童の育成を目指します。

※「QPMIサイクル」

これからの学校は，全教職員・全児童（Member）が，それぞれがもつ「Question」と「Passion」にお互いを巻き込み合いながら，学校内外を問わず，多様な人々・機関（Member）によるチームを形成し，プロジェクトを推進する場です。



出典：株式会社リバネス HP より

PDCAの閉鎖的な出口のないサイクルではなく，「0 から 1」を生み出すプロジェクト（授業づくり・学校づくり）が，これから求められる（つくっていく）学校の姿であり，また同時に，社会に開かれた教育課程のもと多種多様な「人々・関係機関・地域」との協働的な学びをつくりだすことが，「アクティブ・ラーナー」を生み出す仕掛け（サイクル）になります。

（１）「自らすすんで学び」

学校は児童と指導者がともに「学び合う」「高め合う」ところであり，一方通行の「教えるところ」「教わるところ」ではありません。また，指導者が持っている「答え」に導く授業は，岩倉北小学校が目指すものではありません。児童自らが問いを設定しその解決のために学ぶ「主体的・対話的で深い学びの実現」「能動的な学習者の育成」の実現をめざす言葉です。

（２）「ともに築く」

自ら未来を切り拓く人材を育むことが学校の大きな役割です。対話的・協働的な学びは、その根幹となります。「ともに築く」姿勢・考え方は、誰一人取り残さない質的な豊かさを伴った持続可能な社会づくりをすすめる基盤となると考えています。

（３）「豊かに生きる」

「豊かさ」とは何か、どのように「生きるか」、一人一人の「生き方」につながる「問い」を探究することは、自分自身の学びや生き方を振り返り「これから」を考える「メタ認知」能力を育むことにつながり、持続可能な社会づくりをすすめることができます。これからの社会づくりや「豊かさ」について、自らすすんで学び・ともに築く姿勢をもって、社会に開かれた教育課程のもとに、自らの「生き方」を問い続ける場が「岩倉北小学校」であってほしいと考えています。

（４）「岩倉の子」

学校教育目標は、教職員だけの目標ではありません。どのような子どもを育てようとするのかを教職員、児童、地域・保護者等、岩倉北小学校に関わる全ての人と共有し、めざしたくなるものでなければならないと考えています。学校教育目標のイメージの共有を「岩倉の子」の言葉に託しました。

２ 自らの「生き方」を探究する子どもを育む

「豊かに生きる」ためには、自らの「生き方」を見つめる視点が必要です。「視点」とは、「見方・考え方」であり、「問いかけ」でもあります。どのような「問いかけ」をもって、「生き方」を見つめていくのかを、２つの言葉で示しました。これまでの「目指す子ども像」にかわるものです。

「好きなことをする」



「人のためにする」



（１）「好きなことをする」

能動的（自主的・主体的・自発的）な行動を指すものであり、「自らすすんで学ぶ」につながるものです。自らすすんで学ぶためには、受動ではなく能動的になることが大切です。内発的動機に基づく能動的（自主的・主体的・自発的）な活動の原動力を「好きなことをする」として示しました。誰しもが「好きなことをする」ことに、努力は惜しみません。

（２）「人のためにする」

誰一人取り残さない質的な豊かさを伴った持続可能な社会を創る・豊かに生きるベースとなる考え方です。その基となるのは、自他の肯定と尊重とともに協働的な活動を大切にすることであり、「ともに築く」と歩調を同じくするものです。自分とともに、他者を理解し意識することが「メタ認知能力」の育成にもつながります。

（３）生徒指導の三機能

①「自己決定の場を与える」

自己決定とは、自分で決めて実行するということ。常に『相手』と『自分』の両者を中心にすえて行動するということ。つまり、身勝手な「自己決定」ではなく、他の人々を大切にすることを根拠にして自分の行動を考えなければなりません

②「自己存在感を与える」

自己存在感とは、自分は価値ある存在であるということを実感すること。教師は、子ども一人一人の存在を大切に思って指導することが大切です。子どもの独自性や個性を大切にした指導が必要となります。

③「共感的人間関係の育成」

共感的人間関係とは、相互に人間として無条件に尊重し合う態度で、ありのままに自分を語り、理解し合う人間関係をいう共感的人間関係は、教師と子どもの関係だけでなく子ども同士の間でも大切です。

３ 豊かな生き方を創るイノベーション

（１）豊かな社会を創る「活私開公」のすすめ

①「活私」

自己の活性化をはかり個性を重視しつつ、他者の価値観も尊重するもの。「自分らしく」「自己肯定」「自己有用」「好きなことをする」につながるものです。

②「開公」

社会貢献、社会を創る担い手として、公（仕事・役割）を花開かせること。「社会とつながる」「社会を築く」「社会貢献」「人のためにする」につながるものです。

（２）岩倉北のモットー…ともに「直向・前向・上向」「一生懸命はカッコいい」

①ともに…「みんな」で一括りにせず、一人一人を大切に「お互いに」

②直向き…誠実にコツコツと積み重ねる姿

前向き…目標を定め計画的に姿

上向き…常に向上心を持ち、「あるべき」の上をいく「ありたい」を求める姿

- ③一生懸命はカッコいい…岩倉北教育の根幹，全ての行事・取組・活動の姿。
今年度から，「が」から「は」に，多様な価値観の一つであり，共有する柱。

(3)「あるべき姿」から「ありたい姿」へ

①「あるべき」姿を求める

- ・義務と責任等の中で求められる外発的動機による「目的」の見えない「目標」設定になりがち。「あるべき」姿は他者基準の固定的な価値観であり，多様性を許さないものです。
- ・他律的になり，失敗や嫌なことは全てが「相手のせい」になる。
- ・「あるべき」は他者基準であり，100%で完結するものです。目標達成が目的になってしまう。

②「ありたい」姿を求める

- ・「主体的」かつ「前向き」な内発的動機による「目的」の見える「目標」設定になります。「ありたい」姿は一人一人のものであり，多様な姿です。
- ・自律（自立）的であり，失敗や苦手なことも全て「自分のため」「人のため」「社会をつくるため」に「つなげる」能動的な生き方の現れになります。
- ・「ありたい」は，自己基準であり，100%を超え120%へ広がるものです。目的達成にむけて，児童自らが次につなげるものです。

(4) 能動的な学習者，児童力が育つ学校づくり

“**Innovation is for Our Active Learners.**”

岩倉北小学校の目指す学校づくりは，児童を育てることではありません。「育てる」では，どうしても主体が教職員・大人になってしまいます，一方，「育つ」だけでは，児童が目的意識もなく勝手に育っていく，教育とは異なるものになってしまうように感じます。そこで，教職員・大人と児童の中心を「学校づくり」として，学校をつくる（社会を創る）一員としてお互いのつながりを最大限生かして，「能動的な学習者，児童力が育つ岩倉北小学校」をつくることを目指したいと考えています。

そのためには，能動的な学習者，児童力が育つための授業観，価値観の革新を学校としてすすめることが大切になります。PDCAサイクル上になる「改善」や「改革」ではなく，QPMIが創りだされる「革新」を続けることによって，新しい伝統を創りに繋がりたいと思います。

卒業してからも，どんな社会の変化にも自身の力を発揮できる「児童力」を育てることを目指します。これが岩倉北小学校のキャリア教育です。

学校評価のねらい

学校・保護者・地域それぞれの学校教育活動に向けた願いや子どもたちの見取りを共有し、より豊かな教育活動を協力しながら行うことができるようにする。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中間評価	4	教育指導計画の作成		
	5	学校評価の実施に向けた企画 評価項目の検討	第1回学校運営協議会 ・学校教育方針の説明 ・学校評価の説明	学校評価年間計画をHPに公表
	6		学校運営協議会による1学期評価の開始	
	7	1学期保護者アンケート・学校関係者アンケート 1学期児童アンケート 1学期自己評価の実施		
	8	評価結果の分析 今後の方針の検討 結果と改善策の共有		
	9			
	10		第2回学校運営協議会 ・1学期学校評価の結果と分析・改善策に対する意見交換	プリント配付, HPで結果と分析, 改善策を公表
	11		学校運営協議会による2学期評価の開始	
	12	2学期保護者・学校関係者アンケート 2学期児童アンケート 2学期自己評価の実施		
	1	評価結果の分析 今後の方針の検討 結果と改善策の共有		
	2		第3回学校運営協議会 ・2学期学校評価の結果と分析 改善策や次年度の方針に対する意見交換	プリント配付, HPで結果と分析, 改善策を公表
	3	次年度の方針の共通理解		
年間評価				

令和元年度 学校評価について**京都市立岩倉北小学校****1 評価のねらい**

本校の学校評価は、学校教育目標「自らすすんで学び ともに築き 豊かに生きる 岩倉の子」の実現に向けて、①具体的なビジョンが示され、校長のリーダーシップのもとに学校が機能しているか、②学校がすすめる授業をはじめ様々な取組が、児童の実態に対応したものとなっており、効果がみられるのか、の2つの視点をもって評価をすすめている。

2 重点評価項目**(1)「確かな学力」の育成に向けて**

学校教育目標「自らすすんで学ぶ」に対応する項目として、

- 子どもたちは、授業の中ですすんで学習に取り組むことができる
- 子どもたちは、宿題や自主学習など、家庭での学習に取り組むことができる
- 学校は、子どもたちによくわかる授業をつくるための努力をしている
- 学校は、子どもたちの学習意欲を高める教室や学校内外の環境整備をしている

(2)「豊かな心」の育成に向けて

学校教育目標「ともに築き 豊かに生きる」に対応する項目として、

- 子どもたちは、時と場合と相手に応じて、正しい言葉遣いをしようとしている
- 子どもたちは、時と場合と相手に応じて、自然なあいさつをしようとしている

(3)「健やかな体」の育成に向けて

学校教育目標「ともに築き 豊かに生きる」に対応する項目として、

- 子どもたちは、自分や友達の安全を考えた行動をとることができる
- 子どもたちは、好き嫌いなく食べたり、適度な運動をしたりするなど、自分の健康を考えた行動をとることができる
- 学校・地域・保護者が協力して、安全や健康に対する取組をすすめることができる

(4) 学校独自の取組

キャリア教育並びに特別活動・学級活動の研究の成果を見取るために

- 子どもたちは、友達や周りの人に対して、優しくかかわろうとしている
- 子どもたちは、ルールやきまりをすすんで守ろうとしている
- 学校は、子どもたちが互いに認め合い、成長し合える学級づくりのために努力している
- 学校教職員と保護者と地域が、相互に協力し合って、子どもたちを育てている
- 学校は、学校便りやホームページなどによって、保護者・地域への情報発信に努力している

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

- 学校は、教職員が子どもと向き合う時間を確保し、いきいきとやりがいをもって働くことができる環境づくりのために働き方改革を進めている
- 学校は、働き方改革の一つとして、閉校時刻や電話対応開始及び終了時刻の設定等について保護者・地域への周知を進め、理解と協力を得ようとしている

3 評価項目の検討方法

- ・学校教育目標の達成に向け、教育活動と学校運営の改善に繋がられるよう、アンケート調査の項目を「自らすすんで学ぶ」「ともに築く」「豊かに生きる」に分類している。
- ・キャリア教育並びに特別活動・学級活動の取組の成果を「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の視点から測定するための項目となるように検討している。
- ・長期的な変化を把握するため、変更しない項目を設定している。

4 評価手法

- ・1学期末と2学期末に「児童」「保護者・地域」「教職員」を対象としたアンケート調査を実施している。
- ・学級活動の授業研究に取り組み、その授業の中での子どもたちの考えや意見を分析・評価している。
- ・全国学力学習状況調査での児童質問紙の活用と結果分析。

5 アンケート結果等による分析

(1)「確かな学力の育成に向けて」について

- ・学校アンケートでは、「先生はよく分かる授業をつくるためによくがんばっている」「先生は、みんなが勉強しやすいように教室などの環境を整えている」という設問の評価の高さから、学校の学力向上に向けた取組や努力を理解してもらっていることがよく分かる。また、前向きに学習に取り組もうとする子どもたちが多く、自分から学び続けることができる力が少しずつ身についてきているように思う。
- ・本年度、特別活動を研究していったことにより、学校行事と学級活動とが往還する指導を構築することができ、子どもたち自身も、自分たちの学びを学校行事や学校生活に生かすことができたという実感をもつことができています。

(2)「豊かな心の育成に向けて」について

- ・友達にやさしく接することや友達を認めるといった評価が高く、他者を思いやり気持ちや認め合える気持ちが育まれ、友だちと共に豊かな学校生活を築いていこうとする姿がたくさん見られている。
- ・あいさつや言葉遣いに関して、児童、地域・保護者、教職員とで認識に差がある。これは、教職員が期待する子どもの姿が、子どもたちにしっかりと伝わっていないことが考えられる。

(3)「健やかな体の育成に向けて」について

- ・継続的に行っている地道な安全指導や安全見守り活動などを通して、登下校時における子どもの安全への意識が年々高くなっている。また、子どもたちも地域の方々とコミュニケーションをとりながら登下校していく中で、安心感をもって毎日の生活を過ごすことができています。
- ・自転車の乗り方について、学級での安全指導はもちろん、学校全体での呼びかけや保護者への啓発、下校後のパトロールなど、積極的に学校から取組を進めていく必要があると考えられる。

(4) 学校独自の取組について

- ・キャリア教育を意識しながら、学校行事を中心に取組を進めていることにより、自分

の成長を実感し、自尊感情の高まりが見られる。

- ・同級生や異学年の仲間と共に、運動会や宿泊学習などの取組を行っていくことで、低学年は高学年へのあこがれと向上心をもち、高学年は下級生を上級生としての自覚をもって優しくリードするなど、ともに協力していこうとする気持ちなど、相手意識をもって豊かな学校生活をつくっていこうとする素地が育まれている。

6 自己評価

(1)「確かな学力の育成に向けて」について

授業づくりについてはこれからも継続して行っていくとともに、子どもたちが主体的に行おうとする家庭学習のあり方を考え、学年の実態に合わせて取り入れていくことで、自分に合った学習を子どもたち自身が考え、目的をもって、家庭学習を行うことができるようにしていきたい。

(2) 学校独自の取組等について

多様性を理解し受け入れる素地はできてきているが、その多様性を生かすところまではできていないために、学校生活に満足できなかったり、登校に不安を感じたりしている子どもたちがいると考えられる。来年度は、多様性を認め受け入れ、さらにその1人1人の特性や個性を生かすことができるような教育活動を進めていきたい。

7 学校関係者評価

(1)「確かな学力の育成に向けて」について

学校アンケートの「自らすすんで学ぶ」の項目については、総じて良い傾向を示す結果となっている。これからも質の高い学習の実現のために、学びの目的や方法を研究していきながら、子どもたち1人1人の学びを豊かにしていってほしい。

(2) 学校独自の取組等について

子どもたちはおおむね優しく、思いやりをもって友達と関わっていると考えられる。ただし、場面によって態度が変わる場面も見られる。子どもたちが表出する様々な姿をしっかりと見取り、共有していきながら子どもたちを育んでいくことが大切である。

8 総括・次年度に向けた課題等

学校教育目標が変わって2年目ということもあり、教職員1人1人にも学校教育目標が根付いてきており、学校教育目標を中心に据えた教育活動に取り組むことができる。特に、キャリア教育を柱としたカリキュラム・マネジメントの下、学校行事と学級活動とが往還する指導を通じて、子どもたち自身も自分たちの成長を実感し、学校と保護者とでその成長を共有することができた。

来年度は、これまでの成果を土台にしながら、自分の存在が、豊かな学校生活をつくるための大切な存在であることを実感できるようにしたい。そのためには、学級や学年の取組はもちろんのこと、異学年での取組を効果的に取り入れる中で、自分の得意なこと・好きなことをそれぞれの取組の中で生かしていくことができるような役割を子どもたち1人1人に保障し、指導者はその役割に向かって一生懸命な姿を見取り、価値づけしていくような教育活動を行っていきたいと考える。

令和元年度 1 学期 学校評価について



令和元年度 1 学期学校評価について

<グラフについて>

- 棒グラフの左から、児童⇒地域・保護者⇒教職員の順に表しています。

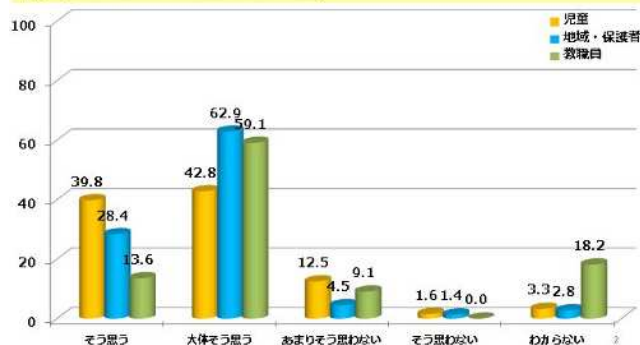
<分析について>

- 結果**には、児童、地域・保護者、教職員の回答の集計を割合(%)にして表して記載しています。
- 考察**には、アンケート結果や地域・保護者の皆様、学校運営協議会での意見などをふまえて、成果や課題、改善策などを記載しています。

自らすすんで学ぶ

①

子ども達は、授業の中ですすんで学習に取り組むことができている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
児童	39.8	42.8	12.5	1.6	3.3
地域・保護者	28.4	62.9	4.5	1.4	2.8
教職員	13.6	59.1	9.1	0	18.2

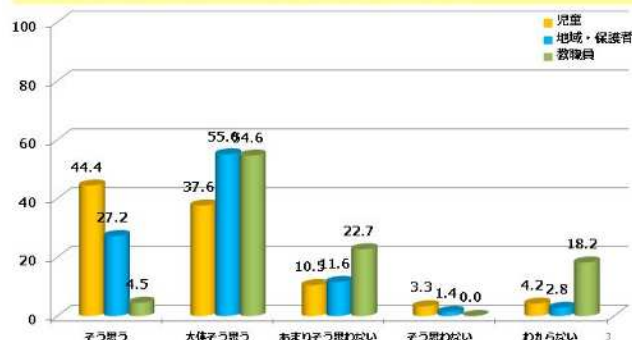
考察

すすんで学習する原動力は、児童が「やりたい!」という気持ちだと考えています。多くの児童がすすんで学習できていると答えていますが、これからも児童の「やりたい!」という気持ちを大切に、深い学びを意識した授業づくりを進めていきたいと思います。

自らすすんで学ぶ

②

子どもたちは、宿題や自主学習など、家庭での学習に取り組むことができている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
児童	44.4	37.6	10.5	3.3	4.2
地域・保護者	27.2	55.0	11.6	1.4	2.8
教職員	4.5	54.6	22.7	0	18.2

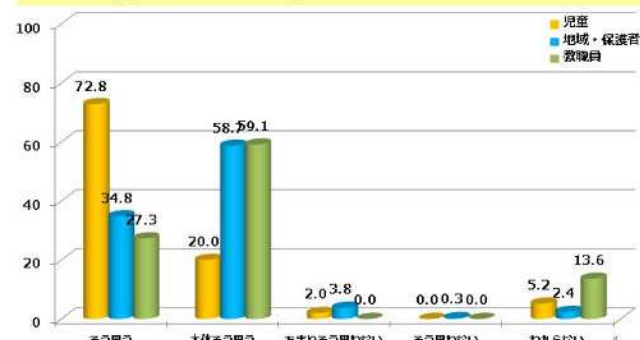
考察

学校での授業と同様に、児童が家庭学習に必然性を感じているかどうか大切になってきます。児童が主体となる授業づくりと家庭学習とに関連性をもたせ、保護者の皆様と連携をとりながら、家庭学習を進めていきたいです。

自らすすんで学ぶ

③

学校は、子どもたちがよく分かる授業をつくるために努力している。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
児童	72.8	20.0	2.0	0	5.2
地域・保護者	34.8	58.7	3.8	0.3	2.4
教職員	27.3	59.1	0	0	13.6

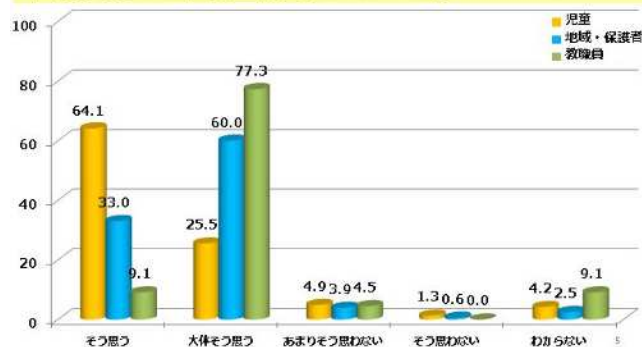
考察

分かる授業とは、分かりやすく教師が教えるということもありますが、児童が考えたい内容の授業を行い、児童が主体的に考え、学んでいく授業であると考えています。児童が自ら知識を獲得したり、考え表現したりする中で学びを深めることができる授業づくりを目指していきたいです。

自らすすんで学ぶ

④

学校は、子どもたちの学習意欲を高める教室や学校内外の環境整備をしている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
児童	64.1	25.5	4.9	1.3	4.2
地域・保護者	33.0	60.0	3.9	0.6	2.5
教職員	9.1	77.3	4.5	0	9.1

考察

倒れる恐れのある樹木の伐採、ボルダリング広場の造営など、教頭と管理用務員が中心となって、安全で豊かな活動のための環境整備を進めてきました。担任も学習の支援となるような資料を作成するなど、学習環境を整備しています。校内美化についても児童と教師が共に汗を流して行きたいと思っています。

ともに築く

⑤

子どもたちは、友達や周りの人に対して、優しくかわろうとしている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
児童	51.3	35.5	4.9	1.6	6.6
地域・保護者	30.0	66.9	2.1	0	1.0
教職員	36.4	50.0	9.1	0	4.5

考察

異学年交流の取組により、上級生が下級生にやさしく関わる場を多く設定する中で、そのことで、下級生は上級生にあこがれの感情を抱き、自分も「人にやさしく関わる人になりたい」という思いが広がってきているように思います。

ともに築く

⑥

子どもたちは、ルールやきまりをすすんで守ろうとしている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
児童	41.8	39.5	9.9	2.5	6.3
地域・保護者	26.3	67.7	4.6	0.7	0.7
教職員	4.5	77.3	13.6	0	4.5

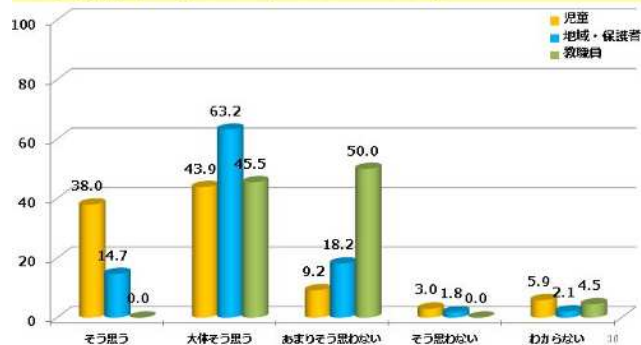
考察

決められているから守るということではなく、なぜこのきまりがあるのかということを考えたり、よりよい学校生活をつくるために児童同士が話し合い、合意形成したりする場面を増やしていきたいと考えています。

ともに築く

⑦

子どもたちは、時と場合と相手に応じて、正しい言葉遣いをしようとしている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
児童	38.0	43.9	9.2	3.0	5.9
地域・保護者	14.7	63.2	18.2	1.8	2.1
教職員	0	45.5	50.0	0	4.5

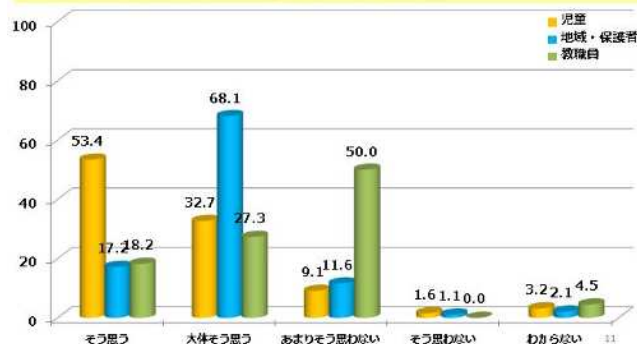
考察

誰に対しても、どんな場面でも、自分のおもいを相手に正確に伝えるための表現力が、正しい言葉づかいと考えます。引き続き、自分のおもいを堂々と表現する力をつけることができる指導を進めていきたいと思っています。

ともに築く

⑧

子どもたちは、時と場合と相手に応じて、自然なあいさつをしようとしている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
児童	53.4	32.7	9.1	1.6	3.2
地域・保護者	17.2	68.1	11.6	1.1	2.1
教職員	18.2	27.3	50.0	0	4.5

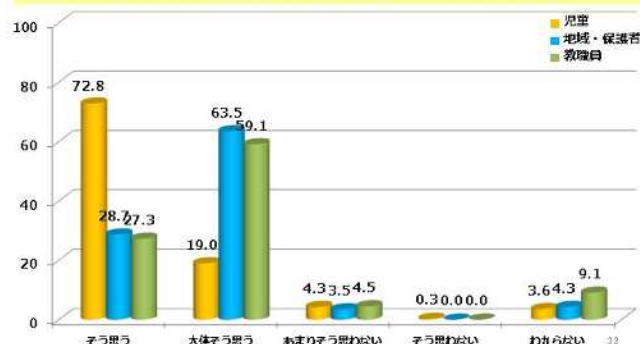
考察

登校時に見守り活動をしてくださっている多くの方から、元氣よくあいさつをしてくれてうれしいという声を聞きます。多くの方に見守られることで、児童も自ら関わろうとする心が芽生え、それがあいさつとなって表れているのだと思います。

ともに築く

⑨

学校は、子どもたちが互いに認め合い、成長し合える学級づくりのために努力している。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
児童	72.8	19.0	4.3	0.3	3.6
地域・保護者	28.7	63.5	3.5	0	4.3
教職員	27.3	59.1	4.5	0	9.1

考察

認め合えることは児童が安心して学校生活を送ることができる基盤であり、岩倉北小学校の強味でもあると思います。ちがいがあっていいんだという気持ちが認め合いにつながり、安心した居場所づくりにつながると思います。

豊かに生きる

⑩

子どもたちは、自分や友達の安全を考えた行動をとることができている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
児童	51.5	35.5	7.2	1.0	4.9
地域・保護者	12.9	70.7	13.6	0.7	2.1
教職員	4.5	63.7	22.7	0	9.1

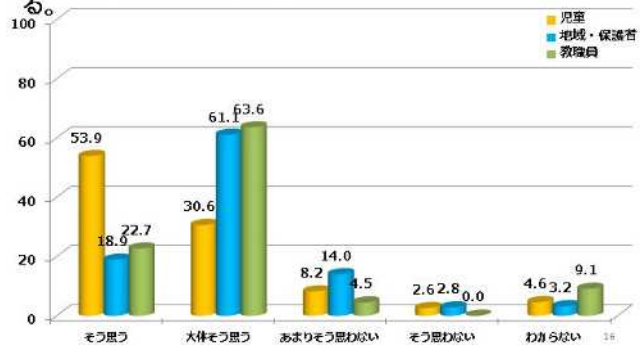
考察

引き続き、地域・PTAの方々の、朝の安心・安全の取組などの成果があらわれています。また、各学級での安全面での指導も継続的に行い、児童の安全への意識を高めていきたいと思います。

豊かに生きる

⑪

子どもたちは、好き嫌いをなく食べたり、適度な運動をしたりするなど、自分の健康を考えた行動をとることができている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
児童	53.9	30.6	8.2	2.6	4.6
地域・保護者	18.9	61.1	14.0	2.8	3.2
教職員	22.7	63.6	4.5	0	9.1

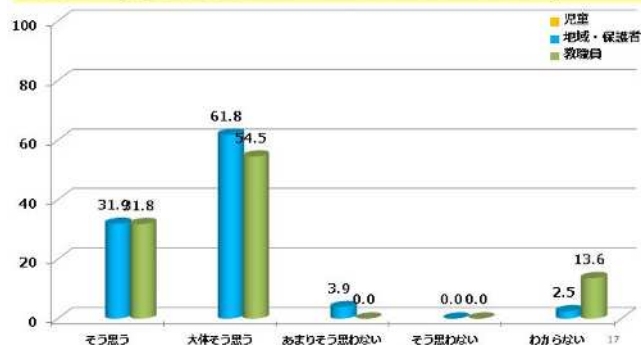
考察

生活点検などを見ていると、高学年になるにつれて、就寝時刻が遅くなり、睡眠時間が短くなる傾向があります。食と運動とともに、保護者の方と協力して、毎日の規則正しい生活習慣の確立にも力を入れていきたいと思います。

豊かに生きる

⑫

学校・地域・保護者が協力して、安全や健康に対する取組をすすめることができている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
地域・保護者	31.9	61.8	3.9	0	2.5
教職員	31.8	54.5	0	0	13.6

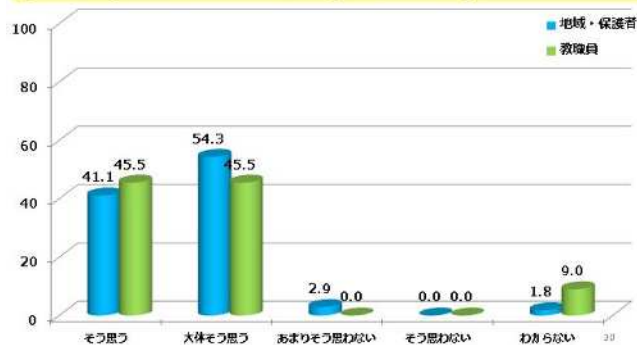
考察

学校・地域・保護者が協力しながら児童の安全・健康に取り組むことができている。自由記述欄にも、「地域やPTAの方に見守っていただき、安心して学校に送り出すことができている」という旨の記述が多くありました。学校からも本当に感謝申し上げます。

保護者・地域とのかかわり

⑬

学校教職員と保護者と地域が、相互に協力し合って、子どもたちを育てている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
地域・保護者	41.1	54.3	2.9	0	1.8
教職員	45.5	45.5	0	0	9.0

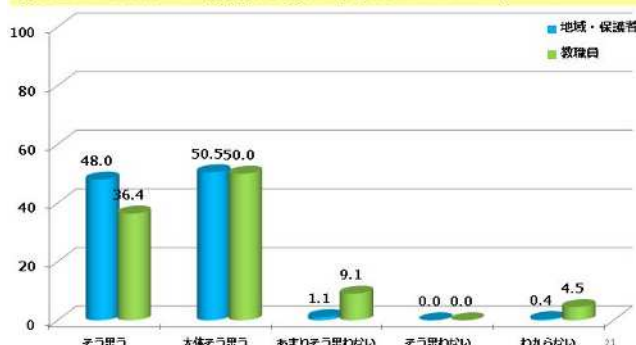
考察

学校だけでなく、地域ぐるみで児童を見守り、育ていくことは、岩倉北学区の大きな強みであると思います。これからも、児童の様子を地域・保護者の方と共有していきながら、今の児童に合った教育活動を共に考えていければと思います。

保護者・地域とのかかわり

⑭

学校は、学校便りやホームページなどによって、保護者・地域への情報発信に努力している。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
地域・保護者	48.0	50.5	1.1	0	0.4
教職員	36.4	50.0	9.1	0	4.5

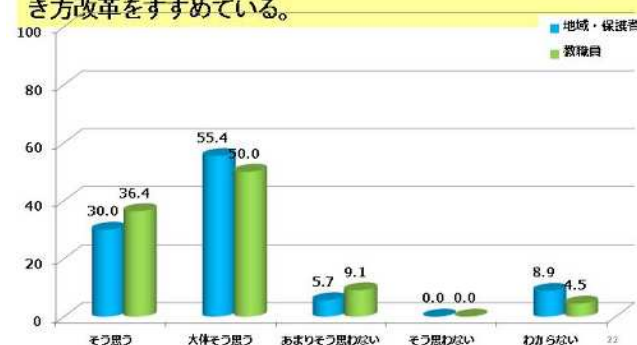
考察

これからも、必要な情報を、正確に発信し、学校と地域・保護者の皆様と子どもの育ちや学校教育の様子を共有していきたいと思います。また情報発信には様々なツールがありますが、それぞれのツールの良さを生かした情報発信に努めていきたいと思います。

保護者・地域とのかかわり

⑮

学校は、教職員が子どもと向き合う時間を確保し、いきいきとやりがいをもって働くことができる環境づくりのために働き方改革をすすめている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
地域・保護者	30.0	55.4	5.7	0	8.9
教職員	36.4	50.0	9.1	0	4.5

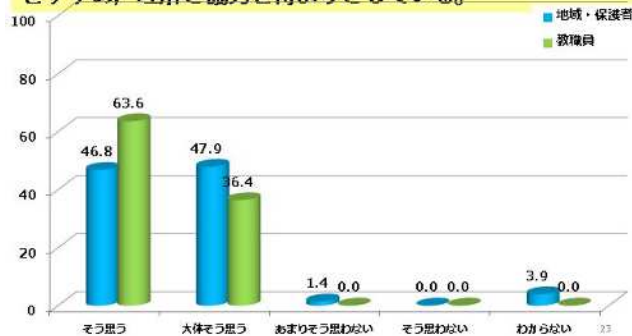
考察

これからも、必要な情報を、正確に発信し、学校と地域・保護者の皆様と子どもの育ちや学校教育の様子を共有していきたいです。また情報発信には様々なツールがありますが、それぞれのツールの良さを生かした情報発信に努めていきたいです。

保護者・地域とのかかわり

⑬

学校は、働き方改革の一つとして、閉校時刻や電話対応開始及び終了時刻の設定等の取組について保護者・地域への周知をすすめ、理解と協力を得ようとしている。



結果	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
地域・保護者	46.8	47.9	1.4	0	3.9
教職員	63.6	36.4	0	0	0

考察

これからも、必要な情報を、正確に発信し、学校と地域・保護者の皆様と子どもの育ちや学校教育の様子を共有していきたいと思います。また情報発信には様々なツールがありますが、それぞれのツールの良さを生かした情報発信に努めていきたいと思います。

保護者の皆様

アンケートにご協力していただき、また、貴重な意見もいただきありがとうございました。

2学期の学校評価を整理し、1学期にいただいた評価との比較も行い、学校運営協議会などからご意見もいただき、分析したことを掲載させていただきました。今年度は新しい取組を行ったり、これまで続けてきたことを新しく変化してきたりしました。そのことについてのご意見も様々にいただきました。今年度は終わりますが、成果と課題を教職員全体で周知し、よりよく改善できるところを見つけたり、新しく取組を進めていかなければならないことを考えたりしながら、新年度の教育活動に生かしていくことができるようにしたいと思います。

そして、何よりも、子ども達1人ひとりが主体となって学び、取り組むことができる学校にしていきたいとおもいます。そんな学校づくりに向けて、これからも教職員一同、より一層努力してまいりますので、これまで同様のご支援・ご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

令和元年度 2 学期 学校評価について

学校評価についてのアンケートのご協力ありがとうございました。「児童」「地域・保護者」「教職員」の回答の集計を割合(%)にして表して記載しています。考察には、アンケート結果や地域・保護者の皆様、学校運営協議会での意見などをふまえて、成果や課題、改善策などを記載しています。

自らすずんで学ぶ

①子ども達は、授業の中ですすんで学習に取り組むことができている。

	そう思う	大体そう思う	概ね思う	そう思わない	わからない
児 童	42.0	42.4	7.8	2.6	5.2
地域・保護者	26.0	65.6	4.8	0.7	2.9
教 職 員	21.7	65.3	0	0	13.0

自らすずんで学ぶ

③学校は、子ども達がよく分かる授業をつくるために努力している。

	そう思う	大体そう思う	概ね思う	そう思わない	わからない
児 童	73.8	19.0	1.6	0.7	4.9
地域・保護者	37.0	57.2	1.8	0	4.0
教 職 員	34.8	52.2	0	0	13.0

ともに築く

⑤子ども達は、友達や周りの人に対して、優しくかかわろうとしている。

	そう思う	大体そう思う	概ね思う	そう思わない	わからない
児 童	48.5	38.8	5.2	1.6	5.9
地域・保護者	28.9	65.9	2.6	0.4	2.2
教 職 員	26.1	65.2	0	0	8.7

ともに築く

⑦子ども達は、時と場合と相手に応じて、正しい言葉遣いをしようとしている。

	そう思う	大体そう思う	概ね思う	そう思わない	わからない
児 童	44.7	42.8	7.2	0.7	4.6
地域・保護者	15.8	62.1	17.3	1.8	2.9
教 職 員	4.3	47.9	39.1	0	8.7

ともに築く

⑨学校は、子ども達が互いに認め合い、成長し合える学級づくりのために努力している。

	そう思う	大体そう思う	概ね思う	そう思わない	わからない
児 童	42.0	42.4	7.8	2.6	5.2
地域・保護者	26.0	65.6	4.8	0.7	2.9
教 職 員	21.7	65.3	0	0	13.0

自らすずんで学ぶ

②子ども達は、宿題や自主学習など、家庭での学習に取り組むことができている。

	そう思う	大体そう思う	概ね思う	そう思わない	わからない
児 童	49.7	33.0	10.8	2.9	3.6
地域・保護者	24.9	57.9	12.5	2.9	1.8
教 職 員	4.3	69.6	8.7	0	17.4

自らすずんで学ぶ

④学校は、子ども達の学習意欲を高める教室や学校内外の環境整備をしている。

	そう思う	大体そう思う	概ね思う	そう思わない	わからない
児 童	58.4	29.4	3.3	3.3	5.6
地域・保護者	32.2	59.3	3.7	0	4.8
教 職 員	31.8	63.7	0	0	4.5

ともに築く

⑥子ども達は、ルールやきまりをすすんで守ろうとしている。

	そう思う	大体そう思う	概ね思う	そう思わない	わからない
児 童	33.8	49.5	8.5	0.3	7.9
地域・保護者	22.8	68.0	7.0	0	2.2
教 職 員	4.3	82.7	4.3	0	8.7

ともに築く

⑧子ども達は、時と場合と相手に応じて、自然なあいさつをしようとしている。

	そう思う	大体そう思う	概ね思う	そう思わない	わからない
児 童	58.9	31.9	4.9	1.3	3.0
地域・保護者	18.2	65.8	13.1	0.7	2.2
教 職 員	17.4	47.9	30.4	0	4.3

豊かに生きる

⑩子ども達は、自分や友達の安全を考えたと行動をとることができる。

	そう思う	大体そう思う	概ね思う	そう思わない	わからない
児 童	50.1	40.8	5.2	0.3	3.6
地域・保護者	15.8	69.2	10.6	0.4	4.0
教 職 員	8.7	82.6	0	0	8.7

豊かに生きる

⑪子ども達は、好き嫌いがなく食べたり、適度な運動をしたりするなど、自分の健康を考えたと行動をとることができている。

	そう思う	大体そう思う	激しく思えない	そう思わない	わからない
児童	57.7	31.8	7.9	1.6	1.0
地域・保護者	17.6	57.9	18.7	3.3	2.6
教職員	21.7	69.6	0	0	8.7

保護者・地域とのかかわり

⑬学校教職員と保護者と地域が、相互に協力し合って、子ども達を育てている。

	そう思う	大体そう思う	激しく思えない	そう思わない	わからない
児童					
地域・保護者	33.3	61.6	1.8	0	3.3
教職員	47.8	43.5	0	0	8.7

保護者・地域とのかかわり

⑮学校は、教職員が子どもと向き合う時間を確保し、いきいきとやりがいをもって働くことができる環境づくりのために働き方改革を進めている。

	そう思う	大体そう思う	激しく思えない	そう思わない	わからない
児童	42.0	42.4	7.8	2.6	5.2
地域・保護者	26.0	65.6	4.8	0.7	2.9
教職員	21.7	65.3	0	0	13.0

豊かに生きる

⑯学校・地域・保護者が協力して、安全や健康に対する取組を進めることができている。

	そう思う	大体そう思う	激しく思えない	そう思わない	わからない
児童					
地域・保護者	30.4	64.5	2.9	0.4	1.8
教職員	26.1	65.2	0	0	8.7

保護者・地域とのかかわり

⑰学校は、学校内やホームページなどによって、保護者・地域への情報発信に努力している。

	そう思う	大体そう思う	激しく思えない	そう思わない	わからない
児童					
地域・保護者	44.3	52.0	2.6	0	1.1
教職員	47.9	39.1	4.3	0	8.7

保護者・地域とのかかわり

⑱学校は、働き方改革の一つとして、閉校時刻や電話対応開始及び終了時刻の設定等について保護者・地域への周知を進め、理解と協力を得ようとしている。

	そう思う	大体そう思う	激しく思えない	そう思わない	わからない
児童					
地域・保護者	40.3	51.9	3.7	0	4.1
教職員	34.8	56.5	0	0	8.7

考察

◇「自らすすんで学ぶ」の項目については、総じて良い傾向を示す結果となりました。来年度から新学習指導要領が本格実施されることにより、これまで成果があった学び方を生かしつつも、質の高い学習の実現のために、学びの目的や方法を大きく変革していく必要が出てきます。来年度も、本校では校内で研究授業を行いながら、子ども達の学びたいという意欲が持続し、学びを実感できるような授業づくりに取り組んでいきたいと考えております。

◇「ともに築く」の⑦⑧の項目について、子ども達の意識が持続し、子ども達の意識に差が見られています。これは、大人が育みたい子ども達の姿が、子ども達に伝わっていることが考えられます。学校でも、正しい言葉遣いをしている子ども達の姿はどんな姿なのかなど、育みたい子ども達の姿について議論している最中です。また、学校運営協議会やアンケートでのご意見をもとに、学校だけでなく、子ども達を支えていただいているすべての方の願いも取り入れることができるかたちで、子ども達の指導に生かしていくことができればと考えております。

◇「豊かに生きる」の項目についても、総じて良い傾向を示す結果となりましたが、安全面において、自転車の乗り方が気になるという意見がよく聞かれます。学校でも安全ノートや警察の方に来ていただく自転車安全教室を行い、指導を継続しております。ご家庭におかれましても、自転車の乗り方についてお話ししていただき、安全を守ることの大切さをお話していただくと幸いです。

◇「保護者・地域とのかかわり」の項目については、平素より本校教育活動にご理解・ご協力いただいていること、誠に感謝申し上げます。また、教職員の働き方改革についてもご理解いただいているご意見をたくさんいただきました。これからも、地域の方・保護者の方と力を合わせて、子ども達を育み、見守っていくことができればと考えております。どうぞよろしく願っています。

1 教育理念

本校は、社会で生きる生活者として、生徒全員が卒業後に就労することを目指して、働く知識、技能、態度を学び、自身の品格を磨く学校である。（設置の主旨）

本校に学ぶ生徒一人一人には、心身の健康を保持しながら、道徳性を育み、人権意識や規範意識を高め、豊かな人間性を育むことを目指してほしい。さらに、自己肯定感を育みながら、卒業後の願いや夢を描き、自らの生きるかたちとして働く生活を実現させてほしい。（目指す生徒像）

そのために、親や家族からの限らない愛情、地域の方々の温かい支え、先を歩んだ人々が照らす未来への道筋をもとに、地域や企業と協働した教育実践を推進し、生き方探究（キャリア）教育を通して、希望に満ちあふれた生徒の未来の創造、共生社会の形成を目指すこととする。（教育の進め方）

2 学校教育目標

人と共に 心を磨き 地域と共に 笑顔を育てる

歴史と共に 未来を見つめ 新しい世界で生きる人才を育てる

（新しい世界で生きる新しい自分を探す）

3 めざす生徒像

- ・自ら健康維持に努め、自他の命を大切にする生徒（健やかな体）
- ・自ら行動を律し、思いやりと感謝の気持ちを持ち続ける生徒（豊かな心）
- ・自らの良さを見つけ、自らの良さを活かして未来を創造する生徒（確かな学力）

4 めざす教職員像

- ・優れた**人権意識**を持ち、一人一人の生徒を徹底的に大切にしている教職員
- ・キャリア発達を意識し、生徒の主体的・対話的で深い学びを実現する**授業力**を発揮している教職員
- ・総合支援学校教職員としての**専門性**を高めようと、常に研鑽に努めている教職員
- ・保護者、地域、企業、関係機関との**連携・協働**に努めている教職員
- ・**対話と協調**により、相互に信頼し、敬意を示しあえる教職員
- ・ワークライフバランスを意識し、**健康管理**に努めている教職員

5 めざす学校像

- ・地域や企業と協働し、社会に開かれ、社会に貢献している学校
- ・生徒、保護者、地域、企業、関係機関への説明責任を果たし、信用、信頼を得ている学校
- ・総合育成支援教育の啓発に努め、共生社会の形成を推し進めている学校

6 本年度取組の重点

- （1）授業創造の推進による教育課程の整理（カリキュラムマネジメント）
- （2）社会生活、職業生活に生きる道徳性と規範意識の育成
- （3）地域協働活動の一層の充実としての双方向化
- （4）産学協働活動（デュアルシステム）の一層の充実
- （5）総合支援学校のセンター的機能を活かした教育相談・支援機能の充実を図る
- （6）気持ちよく学べ、心地よく仕事ができ、地域に愛される学校環境の整備

学校評価のねらい

学校と学校運営協議会の連携のもと、地域に拓かれた学校を目指すとともに、キャリア教育の概念を活かした地域社会・企業との協働について客観的に評価し、教育活動と学校運営の現状と改善点を明らかにすることにより、教育活動と学校運営の組織的・計画的・継続的改善を図る。

		評価の検討と実施	学校運営協議会 学校評議員の会	公表の時期と方法
中間評価	4	○教育指導計画書の作成		○学校だより ○教育方針発信
	5	○評価項目検討①		○学校だより ○評価年間計画の公表(HP等)
	6	○評価項目検討②	○学校運営協議会 ・学校評価項目の整理	○学校だより
	7	○評価項目の決定 ○学校評価 ・生徒・保護者・教職員アンケート		○学校だより
	8			○学校だより
	9			○学校だより
	10	○学校評価のまとめ	○学校運営協議会 ・学校評価結果の分析を報告 ・課題と改善方法を検討	○学校だより ・HP等で前期学校評価結果を公表
	11	○評価項目検討③		○学校だより
	12	○評価項目検討④ ○学校評価 ・生徒・保護者・教職員アンケート		○学校だより
	1			○学校だより
年間評価	2	○学校評価のまとめ ○学校評価書の作成 ・原案作成	○学校運営協議会 ・学校評価の分析を報告 ・「学校評価書」、次年度の具体的方針・方策を検討・決定	○学校だより ○HP報告 ・分析結果公表 ・改善策の講評
	3	○次年度の具体的方針、方策の決定		○学校だより

令和元年度 学校評価について

東山総合支援学校

1 評価のねらい

- ・学校教育目標の実現に向けて、教育活動の成果と改善すべき課題を探る
- ・保護者・教職員・学校運営協議会にて現状の把握・課題の共有し、学校改善に繋げる

2 重点評価項目

- (1) 「確かな学力」の育成に向けて
働くための基盤となる資質や能力の育成を通して生徒のキャリア発達を支援する
- (2) 「豊かな心」の育成に向けて
 - ・いじめを「しない」「許さない」「傍観しない」知識と姿勢を身に付けさせる
 - ・全教職員が人権意識や規範意識の醸成を組織的・系統的に実施する
- (3) 「健やかな体」の育成に向けて
健康・安全と危機管理のための教育の推進する
- (4) 学校独自の取組
多様な学びの場を確保し、充実させる
- (5) 業務改善・教職員の働き方改革について
 - ・会議の効率化, 「個別の指導計画」等の見直し
 - ・月45h超, 年360h超勤務がない現状の継続・改善

3 評価項目の検討方法

- ・教育活動の改善に繋がれるように評価項目を考察した
- ・評価項目について生徒・保護者・教職員の視点で捉えられるようにした
- ・一項目に一評価とし、できるだけ簡易な言葉を用いる
- ・学年ごとの特徴や経緯を比較検討するため、項目を極力変更していない
- ・主任会や運営会議や経営会議等で検討し、学校運営協議会の場で協議している

4 評価手法

- ・生徒・保護者・教職員にアンケート調査
- ・生徒には日常の様々な活動の場面の観察や振り返り時の聞き取り等
- ・地域の方からは地域協働活動の時に聞き取り等
- ・学校運営協議会委員からは、参観や地域協働活動や協議会にてご意見や支援策を伺う

5 アンケート結果等による分析

- (1) 「地域と共に 笑顔を育てる」について

他者から感謝や期待の声をかけてもらうことが、自己有用感を高めて「笑顔を育てる」ことに繋がると考えている。全校生徒が前期の地域協働活動の一環で地域行事にスタッフとして、準備から当日、後片付けまで積極的に取り組んだ。結果として、前期は「自分は誰かの役に立っていると思う」の項目に7割強, 「専門教科(地域協働活動)の授業でできた, うれしかったことがある」「地域の協力や理解があり、

(様式1)

地域との活動ができていることに感謝している」の項目に9割以上の生徒が肯定的に答えている。後期では微減したのは、大きな地域行事が既に終わり、日常的な地域協働活動が多くなっていることに一因あると考える。

(2) 働くための基盤となる資質や能力の育成について

職場での実習で「できた」「うれしかった」ことがあると9割超が肯定的に答えている。誰しも緊張や不安を感じつつ、今まで学校で身に付けた力を現場で発揮できるかの節目となるのが実習である。職場の方々の理解と支援を受け、個々の目標に向けて一生懸命に取り組んでいる。結果として課題や次の目標等が明確になり、客観的に自分の姿をとらえることができています。

6 自己評価

(1) 「地域と共に 笑顔を育てる」について

- ・慣れによる中だるみの面と求められる結果が高くなることへの不安からくるものだと考える。また、自身の評価基準そのものが高くなっている可能性も考えられる。
- ・役に立っているということが実感できるような言葉かけや振り返りや、次への期待が高まるような意図的な仕掛けがいる。

(2) 働くための基盤となる資質や能力の育成について

- ・個々の生徒の実態や発達段階とあった職場等実習先開拓があまり進んでいない現状である。全教職員で取り組んでいく。

7 学校関係者評価

(1) 「地域と共に 笑顔を育てる」について

地域と学校の関係がお互いになくてはならない存在になってきている。「Winwin」の関係というよりは、「おたがいさま」の関係になっている。

(2) 働くための基盤となる資質や能力の育成について

- ・キャリアプラン（個別の包括支援プラン）に基づいた指導を大切にすることが授業改善につながる。
- ・SNSの使い方を含めた生活習慣の指導を丁寧に行っていくことが基盤である。

8 総括・次年度に向けた課題等

- ・地域協働活動では、地域の方々と生徒がともに活動している。しかし、生徒と保護者や学校の位置付けに差がある。保護者に生徒が地域協働活動をしている様子を参観する機会を設けたり、地域の方々と意見交換したりする場を持つ等仕掛けがいる。
- ・自己有用感に基づく自己肯定感の育成が働く意欲や豊かな人間関係の構築につながっていくと考える。校内外の教育活動には、地域協働活動を中心とした自己有用感の育成に寄与する取組があるが、生徒の自己有用感の数値につながっていない。教職員から様々な場面をとらえた、適切で個々の生徒の実態の応じた評価や承認の仕方や表現の更なる工夫がいる。できている・できていないに留まらず、したこと・しようとしたこと・次のどうしたいか等の内面の育ちに注目した評価を教職員は意識して行う必要がある。

令和元年度 東山総合支援学校 学校評価アンケート(前期)

	教 職 員	回 答		
		そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない
1	生徒や保護者に短期目標や評価について、伝えられている	68.8%	31.3%	0.0%
2	生徒は自己目標にむかって学習に取り組んでいる	39.6%	56.3%	4.2%
3	生徒は満足感や達成感をもち、専門教科(地域協働)の学習に取り組んでいる	54.2%	45.8%	0.0%
4	生徒は満足感や達成感をもち、共通教科の学習に取り組んでいる	29.2%	50.0%	20.8%
5	生徒は満足感や達成感をもち、職場等実習に取り組んでいる	60.4%	39.6%	0.0%
6	生徒が一生懸命に取り組める活動を用意している	56.3%	43.8%	0.0%
7	生徒の得意なことを把握している	58.3%	39.6%	2.1%
8	生徒に働く意欲や働くのに必要な姿勢や態度が育ってきている	43.8%	43.8%	12.5%
9	教員はキャリアプランに基づいて計画的な指導や支援を行っている	45.8%	45.8%	6.3%
10	生徒の努力や達成度について評価し、プランの作成や指導法の改良に活かしている	58.3%	33.3%	8.3%
11	生徒は友達や仲間を大切にし、互いに協力をしている	39.6%	56.3%	4.2%
12	生徒が誰かの役に立ちたいという思いを促す活動を用意している	56.3%	41.7%	2.1%
13	生徒のことを理解できている	35.4%	56.3%	8.3%
14	生徒は自分から積極的に挨拶をしている	35.4%	43.8%	18.8%
15	生徒が適切な食生活を送れるよう指導している	33.3%	50.0%	16.7%
16	生徒に衛生に関する指導や支援を行っている	52.1%	41.7%	6.3%
17	生徒に学校のきまりや約束を守る大切さについて指導している	56.3%	39.6%	4.2%
18	生徒は学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	37.5%	56.3%	6.3%
19	生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している	50.0%	41.7%	6.3%
20	企業との連携・協働による学習環境が設定できている(職場実習など)	62.5%	37.5%	0.0%
21	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	70.8%	27.1%	2.1%
22	生徒や保護者からの個別の相談について対応している	66.7%	33.3%	0.0%
23	生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えられている	58.3%	41.7%	0.0%
24	全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている	58.3%	41.7%	0.0%
25	生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している	56.3%	39.6%	2.1%

	生 徒	回 答		
		そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない
1	今、現在の自分の目標がわかっている	65.1%	27.4%	5.7%
2	目標にむかって学習に取り組んでいる	58.5%	34.9%	5.7%
3	専門教科(地域協働活動)の授業で、「できた」「うれしかった」ことがある	66.0%	25.5%	6.6%
4	共通教科の授業で、「できた」「うれしかった」ことがある	48.1%	33.0%	11.3%
5	職場での実習で、「できた」「うれしかった」ことがある	66.0%	22.6%	8.5%
6	一生懸命に学習に取り組んでいる	58.5%	33.0%	7.5%
7	自分の得意なことがよくわかっている	60.4%	24.5%	10.4%
8	働くことに必要な意欲・姿勢・態度が身につけてきた	52.8%	40.6%	6.6%
9	先生は何のために勉強するのかをわかりやすく教えてくれる	62.3%	31.1%	5.7%
10	先生は学習の成果について、伝えてくれる	62.3%	28.3%	6.6%
11	友達や仲間を大切にし、互いに協力している	67.9%	23.6%	6.6%
12	自分は誰かの役に立っていると思う	34.0%	35.8%	22.6%
13	自分のことを理解してくれる人がいる	53.8%	29.2%	14.2%
14	自分から元気づけられることができる	47.2%	36.8%	10.4%
15	朝ご飯を食べている	73.6%	8.5%	7.5%
16	清潔にしている(例えば、入浴・着替え・歯磨きなど)	82.1%	13.2%	2.8%
17	(学校や家庭での)きまりや約束を守っている	71.7%	23.6%	3.8%
18	(学校や家庭での)きまりや約束を守っている	58.5%	32.1%	8.5%
19	家庭で決まった役割(例えばお手伝い)があり、実行している	50.0%	26.4%	17.0%
20	企業との連携・協働があり、職場実習などができていることに感謝している	75.5%	20.8%	3.8%
21	地域の協力や理解があり、地域との活動ができていることに感謝している	73.6%	20.8%	4.7%

	保 護 者	回 答		
		そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない
1	短期目標や評価について、学校は保護者に伝えられている	52.3%	43.9%	3.7%
2	子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	55.1%	39.3%	4.7%
3	子どもは専門教科(地域協働活動)の授業に、満足感や達成感を感じている	32.7%	57.9%	8.4%
4	子どもは共通教科の授業に、満足感や達成感を感じている	25.2%	57.0%	15.0%
5	子どもは職場等の実習に、満足感や達成感を感じている	43.0%	47.7%	8.4%
6	子どもは一生懸命に学習に取り組んでいる	57.0%	36.4%	4.7%
7	子どもは自分の得意なことに気づいている	17.8%	43.9%	36.4%
8	子どもに働く意欲や働くのに必要な姿勢や態度が育ってきた	30.8%	52.3%	15.0%
9	子どもの目標や学習計画に基づく計画的な指導や支援がなされている	39.3%	49.5%	9.3%
10	子どもの努力や達成度について、評価がなされている	38.3%	54.2%	5.6%
11	子どもは友達や仲間を大切にし、互いに協力をしている	40.2%	55.1%	2.8%
12	子どもには誰かの役に立っていると思う学習がある	26.2%	57.9%	15.9%
13	子どものことを理解できている	24.3%	62.6%	11.2%
14	子どもは自分から積極的に挨拶をしている	37.4%	43.9%	16.8%
15	子どもは朝ご飯を食べている	71.0%	17.8%	9.3%
16	子どもには日常的に清潔にするように促している	65.4%	30.8%	2.8%
17	子どもは、学校や家庭での決まりや約束を守ることは大切なことと思っている	52.3%	40.2%	6.5%
18	子どもは学校や家庭でのきまりや約束を守っている	40.2%	49.5%	6.5%
19	子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	39.3%	43.9%	12.1%
20	企業との連携・協働による学習環境が設定できている(職場実習など)	46.7%	45.8%	5.6%
21	地域との連携・協働による学習環境が設定できている(専門教科や地域行事など)	45.8%	48.6%	3.7%
22	個別の相談について、学校は保護者に対応している	46.7%	45.8%	6.5%
23	保護者として学校の教育の趣旨や目的を理解している	48.6%	45.8%	5.6%

令和元年度 東山総合支援学校 学校評価アンケート集計(後期)

	教 職 員	適 合 度		
		そう思う	大体そう思う	あまりそう思う 思わない
1	生徒や保護者に短期目標や評価について、伝えている	72.3%	23.5%	2.1%
2	生徒は自己目標にむかって学習に取り組んでいる	38.3%	59.6%	2.1%
3	生徒は満足感や達成感を持ち、専門教科(地域協働)の学習に取り組んでいる	59.6%	40.4%	0.0%
4	生徒は満足感や達成感を持ち、共通教科の学習に取り組んでいる	31.9%	46.8%	19.1%
5	生徒は満足感や達成感を持ち、職場等実習に取り組んでいる	59.6%	40.4%	0.0%
6	生徒が一生懸命に取り組める活動を用意している	57.4%	38.3%	4.3%
7	生徒の得意なことを把握している	40.4%	53.3%	4.3%
8	生徒に働く意欲や働くのに必要な姿勢や態度が育っている	51.1%	46.8%	2.1%
9	教員はキャリアプランに基づいて計画的な指導や支援を行っている	40.4%	51.1%	6.4%
10	生徒の努力や達成度について評価し、プランの作成や指導法の改良に活かしている	51.1%	42.6%	4.3%
11	生徒は友達や仲間を大切にし、互いに協力をしている	36.2%	63.8%	0.0%
12	生徒が誰かの役に立ちたいという思いを促す活動を用意している	44.7%	51.1%	4.3%
13	生徒のことを理解できている	31.9%	63.8%	4.3%
14	生徒は自分から積極的に挨拶をしている	30.4%	39.1%	23.9%
15	生徒が適切な食生活を送れるよう指導している	31.9%	53.2%	12.8%
16	生徒に衛生に関する指導や支援を行っている	48.9%	44.7%	6.4%
17	生徒に学校のきまりや約束を守る大切さについて指導している	58.7%	39.1%	2.2%
18	生徒は学校のきまりや約束を守って学校生活を送っている	36.2%	57.4%	6.4%
19	生徒に家庭内で決まった役割を担うように促している	48.9%	40.4%	10.6%
20	企業との連携・協働による学習環境が設定できている(職場実習など)	73.9%	26.1%	0.0%
21	地域との連携・協働による学習環境が設定できている	61.7%	38.3%	0.0%
22	生徒や保護者からの個別の相談について対応している	68.1%	31.9%	0.0%
23	生徒、保護者、地域、企業等に本校の教育の趣旨や目的を理解できるように伝えている	56.3%	41.3%	2.2%
24	全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている	52.2%	43.5%	4.3%
25	生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している	50.0%	37.0%	8.7%

	生 徒	適 合 度		
		そう思う	大体そう思う	あまりそう思う 思わない
1	今、現在の自分の目標がわかっている	68.9%	24.5%	5.7%
2	目標にむかって学習に取り組んでいる	57.5%	34.0%	5.7%
3	専門教科(地域協働活動)の授業で、「できた」「うれしかった」ことがある	67.0%	24.5%	4.7%
4	共通教科の授業で、「できた」「うれしかった」ことがある	60.4%	22.6%	14.2%
5	職場での実習で、「できた」「うれしかった」ことがある	78.3%	16.0%	2.8%
6	一生懸命に学習に取り組んでいる	67.0%	26.4%	3.8%
7	自分の得意なことがよくわかっている	64.2%	24.5%	9.4%
8	働くことに必要な意欲・姿勢・態度が身につけてきた	51.9%	40.6%	7.5%
9	先生は何のために勉強するのかをわかりやすく教えてくれる	62.3%	29.2%	5.7%
10	先生は学習の成果について、伝えてくれる	68.9%	23.6%	4.7%
11	友達や仲間を大切にし、互いに協力している	73.6%	23.6%	0.9%
12	自分は誰かの役に立っていると思う	44.8%	34.3%	13.3%
13	自分のことを理解してくれる人がいる	63.2%	26.4%	9.4%
14	自分から元氣よく挨拶ができる	53.8%	26.4%	17.0%
15	朝ご飯を食べている	71.4%	12.4%	7.6%
16	清潔にしている(例えば、入浴・着替え・歯磨きなど)	79.2%	18.0%	1.9%
17	(学校や家庭での)きまりや約束を守っている(学校や家庭で)きまりや約束を守っている	73.6%	20.8%	4.7%
18	(学校や家庭での)きまりや約束を守っている	61.9%	30.5%	5.7%
19	家庭で決まった役割(例えばお手伝い)があり、実行している	52.9%	30.8%	11.5%
20	企業との連携・協働による学習環境が設定できている(職場実習など)	82.1%	14.2%	3.8%
21	地域との連携・協働による学習環境が設定できている(地域での活動ができてい	78.3%	16.0%	3.8%

	保 護 者	適 合 度		
		そう思う	大体そう思う	あまりそう思う 思わない
1	短期目標や評価について、学校は保護者に伝えている	63.1%	35.0%	1.8%
2	子どもは目標に向かって学習に取り組んでいる	46.6%	46.6%	5.8%
3	子どもは専門教科(地域協働活動)の授業に、満足感や達成感を感じている	39.8%	51.5%	6.8%
4	子どもは共通教科の授業に、満足感や達成感を感じている	31.4%	53.8%	13.7%
5	子どもは職場等の実習に、満足感や達成感を感じている	56.3%	35.9%	6.8%
6	子どもは一生懸命に学習に取り組んでいる	52.4%	40.8%	6.8%
7	子どもは自分の得意なことに気づいている	24.3%	49.5%	23.3%
8	子どもに働く意欲や働くのに必要な姿勢や態度が育ってきた	36.3%	53.9%	7.8%
9	子どもの目標や学習計画に基づき計画的な指導や支援がなされている	45.6%	43.7%	9.7%
10	子どもの努力や達成度について、評価がなされている	50.5%	42.7%	5.8%
11	子どもは友達や仲間を大切にし、互いに協力をしている	42.7%	50.5%	5.8%
12	子どもには誰かの役に立っていると思う学習がある	35.3%	48.0%	15.7%
13	子どものことを理解できている	22.5%	67.6%	6.8%
14	子どもは自分から積極的に挨拶をしている	43.7%	35.9%	18.4%
15	子どもは朝ご飯を食べている	72.5%	14.7%	10.8%
16	子どもには日常的に清潔にするように促している	64.7%	28.4%	6.9%
17	子どもは、学校や家庭での決まりや約束を守ることが大切なことと思っている	52.4%	37.9%	7.8%
18	子どもは学校や家庭でのきまりや約束を守っている	42.7%	43.7%	10.7%
19	子どもには家庭で決まった役割があり、実行している	38.8%	41.7%	15.5%
20	企業との連携・協働による学習環境が設定できている(職場実習など)	55.3%	38.8%	5.8%
21	地域との連携・協働による学習環境が設定できている(専門教科や地域行事など)	52.4%	44.7%	2.8%
22	個別の相談について、学校は保護者に対応している	59.2%	35.9%	3.9%
23	保護者として学校の教育の趣旨や目的を理解している	43.7%	53.4%	2.9%